

syllabus

(2021年度)

学校法人巨樹の会
福岡看護専門学校 第1科

目 次

教育課程内訳	1
教育課程進度表	2
評価計画	4
【基礎分野】	
論理学	7
情報科学	8
人間工学	9
心理学	10
成長発達論	11
倫理学	12
教育学	13
家族社会学	14
文化人類学	15
生活科学	16
法律学	17
英語	18
人間関係論	19
【専門基礎分野】	
解剖学 I	20
解剖学 II	21
生理学 I	22
生理学 II	23
形態機能学	24
生化学	25
病理学 I	26
病理学 II	27
病理学 III	30
病理学 IV	33
病理学 V	36
病理学 VI	38
薬理学	43
微生物学	44
治療論	45
保健医療論 I	49
保健医療論 II	51
社会福祉 I	53
社会福祉 II	54
関係法規	55
公衆衛生学	56
【専門分野 I】	
基礎看護学	
I - 1	57
I - 2	58
II	59

III	60
IV	61
V	63
VI	64
VII	66
VIII	67
IX	68
【専門分野Ⅱ】		
成人看護学		
I	69
II	70
III	73
IV	77
V	80
VI	84
老年看護学		
I	87
II	88
III	89
IV	90
小児看護学		
I	91
II	92
III	93
IV	94
母性看護学		
I	95
II	96
III	97
IV	98
精神看護学		
I	99
II	100
III	101
IV	103
【統合分野】		
在宅看護論		
I	105
II	106
III	107
IV	108
看護の統合と実践		
看護管理	109
災害看護・国際看護	112
医療安全	114
臨床看護の実践	115

シラバス

教育課程内訳

第1科 (別表1)

教育内容	授業科目	単位	時間	実施時間		
				1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30	
		情報科学	1	30	30	
	人間と生活・社会の理解	人間工学	1	30	30	
		心理学	1	30	30	
		成長発達論	1	30	30	
		倫理学	1	15	15	
		教育学	1	30	30	
		家族社会学	1	15	15	
		文化人類学	1	15	15	
		生活科学	1	15	15	
		法律学	1	30	30	
		英語	1	30	30	
	人間関係論	1	30	30		
基礎分野・小計		13	330	300	30	0
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖学Ⅰ	1	30	30	
		解剖学Ⅱ	1	30	30	
		生理学Ⅰ	1	15	15	
		生理学Ⅱ	1	30	30	
		形態機能学	1	30	30	
		生化学	1	30	30	
		病理学Ⅰ	1	30	30	
		病理学Ⅱ	1	30	30	
		病理学Ⅲ	1	30	30	
		病理学Ⅳ	1	30	30	
		病理学Ⅴ	1	30	30	
		病理学Ⅵ	1	30	30	
		薬理学	1	30	30	
		微生物学	1	30	30	
	治療論	1	30	30		
	健康支援と社会保障制度	保健医療論Ⅰ	1	15	15	
		保健医療論Ⅱ	1	30	30	
		社会福祉Ⅰ	1	15	15	15
		社会福祉Ⅱ	1	15	15	15
		関係法規	1	15	15	15
	公衆衛生学	1	15	15	15	
専門基礎分野・小計		21	540	390	90	60
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ-1	1	30	30	
		基礎看護学Ⅰ-2	1	30	30	
		基礎看護学Ⅱ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅲ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅳ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅴ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅵ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅶ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅷ	1	30	30	
	基礎看護学Ⅸ	1	30	30		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	90	
	専門分野Ⅰ・小計		13	435	285	150

教育内容	授業科目	単位	時間	実施時間			
				1年	2年	3年	
成人看護学	成人看護学Ⅰ	1	30	30			
	成人看護学Ⅱ	1	30	30			
	成人看護学Ⅲ	1	30	30			
	成人看護学Ⅳ	1	30	30			
	成人看護学Ⅴ	1	30	30			
	成人看護学Ⅵ	1	30	30			
老年看護学	老年看護学Ⅰ	1	30	30			
	老年看護学Ⅱ	1	30	30			
	老年看護学Ⅲ	1	30	30			
	老年看護学Ⅳ	1	15	15			
小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	30	30			
	小児看護学Ⅱ	1	30	30			
	小児看護学Ⅲ	1	30	30			
	小児看護学Ⅳ	1	15	15			
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	15	15		
		母性看護学Ⅱ	1	30	30		
	精神看護学	母性看護学Ⅲ	1	30	30		
		母性看護学Ⅳ	1	30	30		
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	15	15			
	精神看護学Ⅱ	1	30	30			
	精神看護学Ⅲ	1	30	30			
	精神看護学Ⅳ	1	30	30			
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90		90		
	成人看護学実習Ⅱ	2	90	90			
	成人看護学実習Ⅲ	2	90		90		
	老年看護学実習Ⅰ	2	90	90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90		90		
	小児看護学実習	2	90	90			
	母性看護学実習	2	90		90		
	精神看護学実習	2	90		90		
専門分野Ⅱ・小計		38	1320	135	735	450	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	1	15	15		
		在宅看護論Ⅱ	1	30	30		
		在宅看護論Ⅲ	1	30	30		
		在宅看護論Ⅳ	1	15	15		
	看護の統合と実践	看護管理	1	30		30	
		災害看護・国際看護	1	30		30	
		医療安全	1	30		30	
	臨地実習	臨床看護の実践	在宅看護論実習	2	90	90	
			統合実習	2	90	90	
		統合分野・小計		12	390	75	315

教育内容	単位	総時間数	1年生	2年生	3年生
基礎分野	13	330	300	30	0
専門基礎分野	21	540	390	90	60
専門分野Ⅰ	13	435	285	150	0
専門分野Ⅱ	38	1320	135	735	450
統合分野	12	390	0	75	315
総時間	97	3015	1110	1080	825

第1科 評価計画（令和3年度）

令和3年4月1日

	授業科目	単元	単位	時間	配点	満点	評価責任者
基礎分野	論理学		1	30	100	100	内田 友子
	情報科学		1	30	100	100	松尾 育子
	人間工学		1	30	100	100	村木 里志
	心理学		1	30	100	100	村上 太郎
	成長発達論		1	30	100	100	松本 八千穂
	倫理学		1	15	100	100	国越 道貴
	教育学		1	30	100	100	飯田 史也
	家族社会学		1	15	100	100	永吉 守
	文化人類学		1	15	100	100	永吉 守
	生活科学		1	15	100	100	豊増 美喜
	法律学		1	30	100	100	西 貴倫
	英語		1	30	100	100	井上 和子
	人間関係論		1	30	100	100	上瀧 純一
専門基礎分野	解剖学Ⅰ		1	30	100	100	児玉 淳
	解剖学Ⅱ		1	30	100	100	児玉 淳
	生理学Ⅰ		1	15	100	100	王 宇清
	生理学Ⅱ		1	30	100	100	中島 民治
	形態機能学		1	30	100	100	柴田 智子
	生化学		1	30	100	100	井上 哲
	病理学Ⅰ		1	30	100	100	王 克鏞
	病理学Ⅱ		1	30			
		呼吸器			40	100	山岡 賢俊
		腎泌尿器			30		
		アレルギー・免疫・感染症			30		
	病理学Ⅲ		1	30			
		運動器			30	100	福山 幸三
		内分泌			30		
		脳神経			40		
	病理学Ⅳ		1	30			
		消化器			40	100	新海 健太郎
		血液リンパ			30		
		膠原病			30		
	病理学Ⅴ		1	30			
		循環器			50	100	宮崎 澄雄
		先天異常・新生児・小児疾患			50		
	病理学Ⅵ		1	30			
	女性生殖器			50	100	林 広典	
	耳鼻科			25			
	眼科			25			
薬理学		1	30	100	100	永渕 学	
微生物学		1	30	100	100	下川 修	

専門基礎分野	治療論		1	30				
		放射線・手術・検査			40	100	田代 忍	
		食事療法			40			
		リハビリテーション			20			
		保健医療論Ⅰ		1	15	100	100	富永 隆治
		保健医療論Ⅱ		1	30			
			健康と運動			50	100	田中 淳子
			看護倫理			30		
			拘束と安全			10		
			終末期医療			10		
		社会福祉Ⅰ		1	15	100	100	日高浩太郎
		社会福祉Ⅱ		1	15	100	100	日高浩太郎
		関係法規		1	15	100	100	西 貴倫
	公衆衛生学		1	15	100	100	吉田 貴美代	
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ-1	概論	1	30	100	100	淀川 めぐみ	
	基礎看護学Ⅰ-2	理論	1	30	100	100	小池 久美	
	基礎看護学Ⅱ	コミュニケーション・プロセスレコード・記録報告	1	30	100	100	淀川 めぐみ	
	基礎看護学Ⅲ	健康状態の評価	1	30	100	100	野村 あす美	
	基礎看護学Ⅳ		1	30				
		感染予防			50	100	岩本 秀美	
		環境			50			
	基礎看護学Ⅴ	看護過程	1	30	100	100	濱野 敦子	
	基礎看護学Ⅵ		1	30				
		食			40	100	本村 彰子	
		排泄			60			
	基礎看護学Ⅶ	清潔・活動	1	30	100	100	折居 夏美	
	基礎看護学Ⅷ	与薬・検査・ME	1	30	100	100	大園 久美子	
基礎看護学Ⅸ	臨床看護総論	1	30	100	100	阪元 利恵		
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅰ	概論・保健	1	30	100	100	喜志多 玲	
	成人看護学Ⅱ		1	30				
		セルフマネジメント			50	100	喜志多 玲	
		呼吸器			30			
		腎泌尿器			20			
	成人看護学Ⅲ		1	30				
		セルフケア再構築			40	100	大園 久美子	
		運動器			20			
		脳神経			20			
		内分泌			20			
成人看護学Ⅳ		1	30					
	健康危機状況			15	100	阪元 利恵		
	循環器			9				

専 門 分 野 II	成人看護学Ⅴ		1	30				
		治癒困難			40	100	柴田 昌枝	
		消化器			40			
		血液・造血器			20			
		成人看護学Ⅵ		1	30			
			経過(急性期)			40	100	岩本 秀美
			経過(慢性期)			30		
			経過(終末期)			30		
		老年看護学Ⅰ		1	30	100	100	小池 久美
		老年看護学Ⅱ		1	30	100	100	角倉 博美
		老年看護学Ⅲ		1	30	100	100	秀島 康和
		老年看護学Ⅳ		1	15	100	100	野村 あす美
		小児看護学Ⅰ		1	30	100	100	藤野千加子
		小児看護学Ⅱ		1	30	100	100	藤野千加子
		小児看護学Ⅲ		1	30	100	100	藤野千加子
		小児看護学Ⅳ		1	15	100	100	藤野千加子
		母性看護学Ⅰ		1	15	100	100	田中 淳子
		母性看護学Ⅱ		1	30	100	100	三好 君江
		母性看護学Ⅲ		1	30	100	100	田中 淳子
		母性看護学Ⅳ		1	30	100	100	三好 君江
		精神看護学Ⅰ		1	15	100	100	山崎 不二子
		精神看護学Ⅱ		1	30	100	100	早瀬 雅樹
		精神看護学Ⅲ		1	30			
			精神障害を持つ患者看護の基本			60	100	三善 千恵
			精神障害を持つ患者の看護			40		
		精神看護学Ⅳ		1	30	100	100	松瀬 祥一
統 合 分 野	在宅看護論Ⅰ		1	15	100	100	喜志多 玲	
	在宅看護論Ⅱ		1	30	100	100	田上 純子	
	在宅看護論Ⅲ		1	30	100	100	鶴田 ひとみ	
	在宅看護論Ⅳ		1	15	100	100	柴田 智子	
	看護管理		1	30	100	100	岩本 秀美	
	災害看護・国際看護		1	30				
		災害看護				50	100	藤原 孝成
		国際看護				50		
		医療安全		1	30	100	100	田中 智恵子
		臨床看護の実践		1	30	100	100	濱野 敦子

基礎分野

領 域	基礎分野	授業科目	論理学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	内田 友子		講師所属		
<p>授業のねらい・授業目標</p> <p>客観的にものごとを考察して最適な判断をくださること、自分の考えを正確に相手へ伝えること、相手の主張や立場を理解すること。これらは社会生活を営む上で欠かせないコミュニケーション能力である。特に、迅速かつ適切な判断と伝達が常に求められる医療の現場においては、必要不可欠な能力であるといえる。</p> <p>これらの能力を支えるのが、論理的な思考力である。授業では、さまざまな側面から事象を観察、考察し、ときには自分の意見とまったく逆の立場から問題を照らし出してみることによって、何がその場における最も望ましい判断であるか、検討していく。</p> <p>授業概要</p> <p>以上のことを、おもに次のような「読む」「書く」「話す」を通して実践する。</p> <p>「読む」…論説文や時事問題を読解し、問題点を抽出する。抽出された問題を多角的に考察・検討する。</p> <p>「書く」…論理的に文章を組み立てる。適切な表現を支える語彙力、文章力を養う。</p> <p>「話す」…口頭で自身の考えを明確に述べる。相手の意見に対する反論を冷静に、かつ説得力をもって展開する。</p> <p>授業の進め方</p> <p>課題文からテーマを設定し、賛否、根拠の説明、反論の想定等、あらゆる面から問題を把握・考慮し、各自論述する。作成された小論文をもとに、全員でその内容の妥当性・説得力について検討する。</p> <p>教科書</p> <p>毎回、教材のプリントを配付</p> <p>参考図書</p> <p>授業の展開内容に即し、適宜紹介していく</p> <p>評価方法</p> <p>授業中の課題への取り組み (20%)、試験 (80%)</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	情報科学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	松尾 育子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>IT社会において必要とされる、コンピュータの基本原則について理解するとともに、コンピュータと情報技術に関する知識を身につけることを目的とする。</p> <p>また、実務レベルのアプリケーションの習得、さらに情報倫理を学ぶことにより看護活動に有効な道具としてコンピュータを使いこなすことを目的とする。</p> <p>授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書を作成することができる ・プレゼンテーションを作成することができる ・表計算ソフトを使用して、集計し分析することができる ・情報倫理を理解できる <p>授業概要</p> <p>オペレーティングシステムの基本操作、タイピングや日本語入力方法をマスターし、Word、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能についてテキストを使用して学ぶ。また必要に応じて、スライドやその他資料を配布する。</p>					
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基礎 ・アプリケーション実習 ・情報倫理 ・総合まとめ 					
<p>教科書</p> <p>医療従事者のための情報リテラシー 第2版 日経BP出版センター</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p> <p>ファイル提出</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	人間工学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	村木里志・ヨーウェンリアング		講師所属	九州大学	
<p>授業のねらい</p> <p>人間工学は人間の心理的・生理的・身体的能力と限界を理解し、安全・快適・健康な生活の保持・向上に貢献する学問である。本授業では将来の看護師が介護現場に人間工学的な知識を応用できるように人間工学の基礎、考え方、実践方法を解説する。</p> <p>授業目標</p> <p>人間工学の基礎を理解する。</p> <p>人間工学的な問題解決方法を応用して看護環境を検討できる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間工学とは 2. ヒトの形状とモノとの関係 3. ボディメカニクス 4. 疲労とストレス 5. 感覚障害と補助手段 6. 人間の情報処理 7. ヒューマンエラーの原因と対策 8. 看護環境でのヒューマンエラー 9. 高齢者の特徴 10. バリアフリー 11. ユニバーサルデザイン 12. 人間工学の実践 (1) 課題の趣旨・事例説明 13. 人間工学の実践 (2) 課題の実践 14. 人間工学の実践 (3) 発表 15. 筆記試験 					
<p>授業の進め方</p> <p>座学講座および実習</p>					
<p>参考図書</p> <p>看護・介護のための人間工学入門：小川鑛一他、東京電機大学出版局</p>					
<p>評価方法</p> <p>出席、宿題、授業態度および試験によって総合的に評価。</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	心理学	単位(時間数)	1 (30)																
				講義回数	14回+テスト																
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年																
担当講師	村上 太郎		講師所属	九州女子大学																	
<p>授業のねらい</p> <p>知覚、認知（記憶や対人認知など）、動機づけ、コミュニケーションなどの幅広い分野を取り上げ、人間の心理や行動を理解するための基礎を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>心理学的な視点から自己の経験や体験を捉えなおし、自己理解を深めることができる。心理学の知見を看護の問題や対人関係に応用することができる。</p> <p>授業概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. はじめに：心理学とは</td> <td>9. 言語的コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>2. 感覚・知覚</td> <td>10. 非言語的コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>3. 認知とその発達</td> <td>11. コミュニケーションとカウンセリングマインド</td> </tr> <tr> <td>4. 記憶の仕組み</td> <td>12. ストレスとその対処</td> </tr> <tr> <td>5. 記憶と学習</td> <td>13. ヒトの発達・発達障害・その支援</td> </tr> <tr> <td>6. 動機づけ</td> <td>14. まとめ：看護と心理学</td> </tr> <tr> <td>7. 対人認知と印象形成</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 集団・社会における心理</td> <td></td> </tr> </table>						1. はじめに：心理学とは	9. 言語的コミュニケーション	2. 感覚・知覚	10. 非言語的コミュニケーション	3. 認知とその発達	11. コミュニケーションとカウンセリングマインド	4. 記憶の仕組み	12. ストレスとその対処	5. 記憶と学習	13. ヒトの発達・発達障害・その支援	6. 動機づけ	14. まとめ：看護と心理学	7. 対人認知と印象形成	15. 試験	8. 集団・社会における心理	
1. はじめに：心理学とは	9. 言語的コミュニケーション																				
2. 感覚・知覚	10. 非言語的コミュニケーション																				
3. 認知とその発達	11. コミュニケーションとカウンセリングマインド																				
4. 記憶の仕組み	12. ストレスとその対処																				
5. 記憶と学習	13. ヒトの発達・発達障害・その支援																				
6. 動機づけ	14. まとめ：看護と心理学																				
7. 対人認知と印象形成	15. 試験																				
8. 集団・社会における心理																					
<p>授業の進め方</p> <p>基本的には講義形式で行うが、適宜ペアワークおよびグループワークを取り入れ、作業を行う。</p>																					
<p>教科書</p> <p>指定しない。授業中に参考資料を配布する。</p> <p>参考図書</p> <p>授業中に随時紹介する。</p>																					
<p>評価方法</p> <p>授業における取り組み(30%)、各講義の終わりに実施する小レポート課題(20%)、および期末筆記試験(50%)の結果を総合して評価する。</p>																					

3年課程

領 域	基礎分野	授業科目	成長発達論	単位(時間数)	1(30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	松本 八千穂		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>人間の一生涯という全行程を発達のプロセスとしてとらえ、人のライフサイクルにおける各期の身体的・知的・情緒的・社会的な側面が機能的に関連しあって変化していくプロセスを理解し考察する。</p> <p>授業目標</p> <p>人間のライフサイクルを理解し、各期における成長、発達の特徴、課題、問題発生への対処法、さらに関連の法規、社会問題等も併せて能動的に学習を行い、まとめ、発表することにより人間の発達を理解することができる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間と発達 学習のねらいと授業の進め方、生涯発達という視点からの人間理解 2 人間の発達における共通性、発達に影響を及ぼす因子、ジェンダー 3 人間のライフサイクルと発達：胎児期の心と身体（グループワークによる発表） 4 人間のライフサイクルと発達：乳幼児期の心と身体（グループワークによる発表） 5 胎児期・乳幼児期まとめ、子どもの健康と家族病理、虐待が子どもの成長発達に及ぼす影響 6 人間のライフサイクルと発達：学童期の心と身体（グループワークによる発表） 7 人間のライフサイクルと発達：思春期の心と身体（グループワークによる発表） 8 学童期、思春期のまとめ 9 人間のライフサイクルと発達：青年期の心と身体（グループワークによる発表） 10 人間のライフサイクルと発達：成人期の心と身体（グループワークによる発表） 11 青年期のまとめとパラサイトシングル、成人期のまとめ及びジェンダーの視点からの考察 12 人間のライフサイクルと発達：更年期（男・女）の心と身体（グループワークによる発表） 13 成人期、更年期（男・女）のまとめ 14 人間のライフサイクルと発達：老年期の心と身体（グループワークによる発表）、まとめ 15 筆記試験 					
<p>授業の進め方</p> <p>講義に討議形式を加味する。討議は課題テーマを少人数グループに与え、発表者（グループ）はテキストを中心に説明を行う。発表者は必要な場合には追加資料を準備すること。毎回の授業に対する反応を確認すると同時に、グループ発表時の質問・意見など意欲的参加状況も評価の参考とする。</p>					
<p>教科書 看護のための人間発達学 舟島なをみ 医学書院</p> <p>参考図書 講義の中で適宜紹介する</p>					
<p>評価方法</p> <p>グループワークでの発表内容・参加度（ルーブリック評価）及びまとめ時の小テスト、筆記試験成績による評価</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	倫 理 学	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	国越 道貴		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>将来、看護師として患者さんの生や死に直接関わっていくとき、適切な判断のもとでケアにあたっていけるようになるよう、医療のなかで目指されるべきまた考慮されるべき倫理的価値について学びます。</p> <p>授業目標</p> <p>授業で学ぶ事例について、代表的な考え方や対処方法の意味を理解する。 看護の実践において、なぜそのように対処するのか理由を考えられるようにする。</p> <p>授業概要</p> <p>医療上の倫理問題から、考え方について特に議論のある代表的事例を検討します。 インフォームド・コンセント／終末期医療／安楽死・尊厳死／臓器移植と脳死／人工妊娠中絶／出生前診断／生殖補助医療 など</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>講義</p> <p>自分自身で考える練習のため、全員一回は発言してもらいます。</p>					
<p>教科書</p> <p>玉井真理子・大谷いづみ 編 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣 2011.</p> <p>参考図書</p> <p>赤林朗 編『入門・医療倫理 I』勁草書房, 2005. その他、授業で適宜紹介します。</p>					
<p>評価方法</p> <p>試験と平素の学習状況によって評価します。</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	教育学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	飯田 史也		講師所属	福岡教育大学	
<p>授業のねらい</p> <p>本講は、国際間にとどまらない様々な「他文化者」が存在する現実の医療現場の中で、受講生諸君自らがどのような他者理解を行なってゆけばよいのかを、「言語」や「文化」の教育を通じて考察するものである。</p> <p>現実社会の「他文化者」は、「他世代」の「外国人」であったり、「国内他地域」に暮らしてきた「同世代」であったりする。そこで本講では、各世代が自身の生活史、生育史のなかで享受してきた地域文化、世代文化の比較等をも考察の基軸に据え、飯田の用意する様々な日常的異文化接触の事例を検証することで、複眼的な文化理解・人間交流の視点を修得し、多角的な視野をもった医療人の育成を目指す。</p> <p>授業目標</p> <p>自己の文化と他者の文化とを、相対的に見つめなおし、一般的な理論を導き出すことのできる資質能力および自身の生活を取りまく様々な事象から、文化を客観的に捉え考察することのできる資質能力の涵養。</p> <p>授業概要</p> <p>授業計画 各授業では、以下の各項目についてオムニバスに考察するが、順番は前後することもある。</p> <p>第1～3回、文化の多様性（伝統文化と大衆文化、伝統音楽とpops、内外の地域間文化相違の捉え方）</p> <p>第4～6回、医療現場における言語とコンテクスト（ことばと文化をめぐるコンテクスト）</p> <p>第6～7回、医療現場における言語・非言語コミュニケーション</p> <p>第8～10回、海外の日本理解（海外の教科書や映像文化における日本・日本人像）</p> <p>第11～12回、学校文化の地域間相違</p> <p>第13～14回、学校文化の世代間相違（社会史としての学校文化：J-popsにみる中高生の心性史）</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>毎回の授業では、それぞれのテーマ（課題）に対する飯田の見解（解答）を一つだけ提示する。みなさんは毎回の授業終了後、そのテーマ（課題）について、飯田とは異なる視点から考察を行なっておくこと。これを各自の「復習課題」とする。終講時試験では、各自が最も関心を持ったテーマについて、学期中にこの「復習課題」でおこなった自身の考察を論述するという形態にする。</p>					
<p>教科書</p> <p>使用しない。（飯田が準備するレジュメ類にて授業を行う）</p> <p>参考図書</p> <p>授業において適宜指示する。</p>					
<p>評価方法</p> <p>試験：終講時試験の問題は以下である。</p> <p>「今期授業で最も関心を持ったテーマ一つを取り上げ、それに対する独自の考察を展開せよ」</p> <p>本講では試験自体も、受講生各人が文化やそれをめぐる教育について考察を巡らせる機会にあてたい。よってたんに授業で修得した知識を試すものではなく、上記「授業の進め方」の各人の日々の努力を評価する試験とする。</p>					

領域	基礎分野	授業科目	家族社会学		
			単位(時間数)	1 (15)	
			講義回数	7回+テスト	
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	永吉 守	講師所属			
<p>授業概要</p> <p>私たちの多くは、家族というものを「あたりまえ」のものだと思っています。確かに家族は地球規模でみても人間の社会に普遍的なものです。しかしながら、家族のありかたは決して「あたりまえ」ではありません。国家や民族によって異なるのみならず、それぞれの家族によっても異なっています。この授業では、そのような家族のありかたについての「あたりまえ」がいかにか多種多様であるかを提示し、看護において必要な「家族」および「社会」に関する基礎知識を習得するとともに、それらに対する柔軟な考え方を身につけることを目的とします。受講生のみならず、「家族」や「社会」について、自らのことにひきつけるとともに、自らの家族だけでなく、患者さんや地域社会に引きつけて考えることが出来るようになることをこの授業の目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学校で家族社会学を学ぶ意義、「社会」について。 2) 家族・親族・出自・婚姻 その1 3) 家族・親族・出自・婚姻 その2 4) 日本の家族とイエ制度およびジェンダー 5) 死と家族・社会 6) 病気・医療と家族・社会 7) 親密圏と公共圏のゆくえ 					
<p>授業の進め方</p> <p>基本的に講義形式。映像資料なども積極的に活用します。プリント等を配布し、進行します。毎回、質問用紙を配布し、内容を次回の講義にフィードバックする形で進めたいと思います。なお、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。</p>					
<p>教科書</p> <p>使用しない(講義プリント配布)</p>					
<p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮京子(編)『よくわかる 社会学』(第2版) ミネルヴァ書房 ・波平恵美子(編)『文化人類学』(第3版、系統看護学講座 基礎分野) 医学書院 					
<p>評価方法</p> <p>テスト・出席・授業態度を総合的に評価します。</p>					

領域	基礎分野	授業科目	文化人類学		
			単位(時間数)	1 (15)	
			講義回数	7回+テスト	
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	永吉 守		講師所属		
<p>授業概要</p> <p>現代はグローバリゼーション（グローバル化）の時代といわれています。それは看護の分野でも例外ではなく、現代日本においては看護や介護の分野で海外からの人々を受け入れる時代に入ってきています。我々は否応となく海外の様々な人々、モノとつながっているのです。そのような中で必要とされるのは、異文化を理解し、さらに自らの文化を客観視したうえで行動する、ということだと思います。文化人類学の授業では、そうした我々の「常識」を解体し、多様な文化を知ったうえで異文化に接する基礎知識を学ぶことを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文化人類学の目的、文化人類学と「文化」の概念 2) 文化人類学と「文化」の概念 その2、文化相対主義と自民族中心主義 3) 異文化理解とグローバリゼーション（グローバル化） その1 4) 異文化理解とグローバリゼーション（グローバル化） その2 5) 移住・移民と多文化共生社会 その1 6) 移住・移民と多分化共生社会 その2 7) 儀礼・祭りと文化、まとめ 					
<p>授業の進め方</p> <p>基本的に講義形式。映像資料なども積極的に活用します。プリント等を配布し、進行します。毎回、質問用紙を配布し、内容を次回の講義にフィードバックする形で進めたいと思います。なお、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。</p>					
<p>教科書</p> <p>使用しない（講義プリント配布）</p>					
<p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波平恵美子(編)『文化人類学』(第3版、系統看護学講座 基礎分野) 医学書院 ・綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学』(第2版) ミネルヴァ書房 					
<p>評価方法</p> <p>テスト・出席・授業態度を総合的に評価します。</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	生活科学	単位(時間数)	1(15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	豊増 美喜		講師所属	大分大学大学院工学研究科	
<p>授業のねらい</p> <p>健康で快適な生活を送るために重要な、家庭生活・衣食住の知識を身につけ、人の生活には個々のスタイルがあることを念頭に、看護における日常生活の援助技術の基礎を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>人間生活の基盤としての家庭生活、よりよい生活環境のあり方を科学的にとらえ、看護に欠かせられる能力を身につける。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活と家族経済 <ul style="list-style-type: none"> ・近年の家族と家庭生活の変化 ・消費者問題 2. 食生活 <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能と栄養 ・食生活と健康 3. 衣生活 <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の役割と機能 ・衣服の素材と表示、管理 4. 住生活 <ul style="list-style-type: none"> ・住居の役割と機能 ・室内環境と安全 					
<p>授業の進め方</p> <p>資料を配布する。他、視聴覚教材等を使用する。</p>					
<p>教科書</p> <p>なし</p> <p>参考図書</p> <p>講義中に紹介する。</p>					
<p>評価方法</p> <p>講義中のレポート、試験により評価する。</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	法律学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	西 貴倫		講師所属	九州大学	
<p>授業のねらい</p> <p>現代社会において、法は市民社会の隅々にまで張り巡らされている、といっても過言ではありません。こうした点を踏まえて、この授業では市民的教養として法律について学びます。また、この授業は看護師業務の関係法規を学ぶためのイントロダクションを兼ねます。</p> <p>授業目標</p> <p>法律学の基本的な知識や考え方について、理解を得ることが目標です。</p> <p>授業概要</p> <p>具体的には、憲法や、刑法、民法といった代表的な法律、医療に関する法律をとりあげ、その目的や価値基準、社会のなかで果たしている役割について考察します。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>毎回レジメを配布し、配布したレジメに沿って授業を進めます。</p> <p>板書をしますので、必ずノートやメモを取るように心がけてください。</p>					
<p>教科書</p> <p>教科書購入不要</p> <p>関係箇所のみコピー配布します。</p> <p>参考図書</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p>					
<p>評価方法</p> <p>終講時の試験によって評価します。</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	英語	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	井上 和子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>増加してきた外国人の患者さんとコミュニケーションがとれるようにすることと、医療現場で使用される可能性のある医療・看護の専門英語を習得する。</p> <p>授業目標</p> <p>医療に関する英単語及び基本的英語表現を習得し、外国人患者さんに的確な対応ができるようにする。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の説明、授業の受け方 Unit 1. Is this your first visit to this hospital? この病院へは初めてですか？(初診の受付) 2. Unit 2. What's the matter? どうされましたか？(症状を聞く・身体外部の名称) 3. Unit 3. You need to go to dermatology. 皮膚科医に行く必要がありますね。(診療科) 4. Unit 4. Let me direct you to radiology. 放射線科へご案内しましょう。(院内案内) 5. Unit 5. Let's check your height and weight. 身長と体重を測りましょう。(健康診断) 6. Unit 6. I need to ask you some questions. いくつかお尋ねします。(病歴) 7. Unit 7. Can you describe the pain? どんな痛みか言えますか？(痛みと怪我) 8. Unit 8. Rest your arm on the armrest. 腕をアームレストに乗せて下さい。 (診察・検査時の指示) 9. Unit 9. Please make a follow-up appointment. 次回の予約をして下さい。(受診の予約) 10. Unit10. Take this medicine after meals. 食後にこの薬を飲んで下さい。(与薬) 11. Unit11. Your operation will be this afternoon. 手術は今日の午後です。(手術) 12. Unit12. Are you feeling more comfortable now? 気分が良くなりましたか？(情報、説明) 13. Unit13. This is an emergency. こちらは救急です。(救急医療) 14. Unit14. Tests show you have high sugar levels. 検査では血糖値が高いです。(検査) 					
<p>授業の進め方</p> <p>テキストに沿って進める。補助教材としてプリント教材を使用する。 講師の説明と学生の発表形式、ペアやグループでの会話演習で授業を進めていく。 習熟度確認のために小テストを行う。</p>					
<p>教科書</p> <p>English for Nurses 看護系学生のための実践英語(改訂版) 山中マーガレット 朝日出版社</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>定期試験の成績</p>					

領 域	基礎分野	授業科目	人間関係論	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	上瀧 純一		講師所属		
授業のねらい 講義・グループワークを通して、人間関係について多角的に学ぶ。 看護職としての患者さんたちへの関わり方について学ぶ。					
授業目標 ①自己理解・他者理解の深め 相互理解の深め。 ②人間関係への興味を高め人間関係能力（コミュニケーション能力）を高める。					
授業概要 人間関係に起こる様々な出来事の意味を考えていくことで、自らの人生や、他人の人生について考える機会を得ていく。 人間関係の難しさと楽しさについて一緒に考えていきたい。					
授業の進め方 講義だけでなく、グループワークや映像資料を多用しながら、自己理解、他者理解、相互理解についての考え方を深めていく。					
教科書 なし					
参考図書 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院					
評価方法 授業中の態度、出席、および終講試験による評価					

專門基礎分野

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖学 I	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	児玉 淳		講師所属	福岡歯科大学	
<p>授業のねらい 看護師として必要な人体の構造と機能を統合的に理解させ、臨床現場で役立ち応用できる基本的知識の習得にある。</p> <p>授業目標 人体の構造を系統的に学習し、その構造を基本とした機能を理解する。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学とは。体の概要と区分(組織・解剖学用語・面や方向など) 2. 細胞の構造と四大組織の構成, 機能 3. 骨格・筋系: 全身の骨格。骨の構造と機能, 関節の構造と可動性 4. 骨格・筋系: 全身の筋肉。筋系の構造と機能, 筋の補助装置 5. 脈管・循環器系: 概要, 血管(動脈・静脈)の構造と血液の成分・働き, 胎児循環 6. 脈管・循環器系: 全身動静脈の分布状況, リンパ系の構造と機能 7. 神経系: 概要・構造と機能 8. 神経系: 構造と機能: 中枢神経系と末梢神経系 <p>授業の進め方 教科書(人体解剖図と解剖生理学)の内容にそって資料・模型等を用いて講義を行う。 見学実習は献体に実際に触れ・見て・観て・看て・視て, 人体の構造を理解する。</p> <p>教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版</p> <p>参考図書 講義中に紹介します。</p> <p>評価方法 1. 筆記試験 100%</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖学Ⅱ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	児玉 淳		講師所属	福岡歯科大学	
<p>授業のねらい 看護師として必要な人体の構造と機能を統合的に理解させ、臨床現場で役立ち応用できる基本的知識の習得にある。</p> <p>授業目標 人体の構造を系統的に学習し、その構造を基本とした機能を理解する。</p> <p>授業概要 9. 神経系:神経のしくみ(構造と機能)、伝達の概要 10. 神経系:脊髄と脳の構造と機能 11. 神経系:脳神経と脊髄神経の主な支配領域 12. 神経系:下行伝導路と上行伝導路 13. 内臓・消化器系:概要、口腔・咽頭・食道の構造と機能 14. 内臓・消化器系:腹部消化管(瞳臓・肝臓や腹膜)の構造と機能 15. 呼吸器・泌尿器・内分泌系:概要・各臓器の存在位置・構造と機能 16. 感覚器系:眼・耳・鼻・口腔・皮膚の構造と機能 17. 人体の発生の概要 18. 解剖見学</p> <p>授業の進め方 教科書(人体解剖図と解剖生理学)の内容にそって資料・模型等を用いて講義を行う。 見学実習は献体に実際に触れ・見て・観て・看て・視て、人体の構造を理解する。</p> <p>教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版</p> <p>参考図書 講義中に紹介します。</p> <p>評価方法 1. 筆記試験 100%</p>					

3年課程

領 域	専門基礎分野	授業科目	生理学 I	単位(時間数)	1 (15)																
				講義回数	7回+テスト																
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年																
担当講師	王 宇清		講師所属	九州大学																	
<p>授業のねらい 人体の正常機能（生命現象）について習得する。</p> <p>授業目標 生理学 I では、生理学の基本知識と栄養の消化と吸収、呼吸、血液、循環と調節について学習する。</p> <p>授業概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">消化器</td> <td>機能から見た人体</td> </tr> <tr> <td>栄養の消化と吸収：胃、小腸、大腸、肝臓の機能</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>呼吸</td> <td>呼吸によるガス交換、肺の循環、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>血液</td> <td>血液の組成、機能</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>循環</td> <td>心臓の拍出機能、血液の循環の調節</td> </tr> </tbody> </table>						回数	項目	内容	2	消化器	機能から見た人体	栄養の消化と吸収：胃、小腸、大腸、肝臓の機能	2	呼吸	呼吸によるガス交換、肺の循環、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理	1	血液	血液の組成、機能	2	循環	心臓の拍出機能、血液の循環の調節
回数	項目	内容																			
2	消化器	機能から見た人体																			
		栄養の消化と吸収：胃、小腸、大腸、肝臓の機能																			
2	呼吸	呼吸によるガス交換、肺の循環、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理																			
1	血液	血液の組成、機能																			
2	循環	心臓の拍出機能、血液の循環の調節																			
<p>授業の進め方 教科書を使って講義する。必要に応じてプリントを配布する。</p>																					
<p>教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p> <p>参考図書</p>																					
<p>評価方法 筆記試験</p>																					

領 域	専門基礎分野	授業科目	生理学Ⅱ		単位(時間数)	1(30)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	中島 民治		講師所属			
<p>授業のねらい</p> <p>人体解剖学の知識に基づき、人体の正常な機能（生命現象）について習得する。</p> <p>授業目標</p> <p>体液の調整と尿の生成、内臓機能の調節、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応、男性および女性の生殖機能について学習する。</p> <p>授業概要</p> <p>解剖学で修得した知識に基づき、人体機能を理解すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の調節と尿の生成（3回） <ol style="list-style-type: none"> ①腎臓機能、糸球体濾過、尿細管の機能 ②傍糸球体装置 ③体液の調節 2. 内臓機能の調節（4回） <ol style="list-style-type: none"> ①自律神経による調節 ②内分泌系による調節 ③全身の内分泌腺と内分泌細胞ホルモン分泌の調節 ④ホルモンによる調節の実際 3. 情報の受容と処理（3回） <ol style="list-style-type: none"> ①脳の高次機能、運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路 ②視覚 ③聴覚・平衡覚、味覚、嗅覚、痛み（疼痛）受容 4. 身体機能の防御と適応（2回） <ol style="list-style-type: none"> ①皮膚の機能、体温とその調節 ②生体の防御機構 5. 生殖器系（2回） <ol style="list-style-type: none"> ①男性生殖器 ②女性生殖器 						
<p>授業の進め方</p> <p>教科書を使い、パワーポイントの資料を用いて講義する。</p>						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p> <p>参考図書</p>						
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>						

領 域	専門基礎分野	授業科目	形態機能学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	柴田 智子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	雪ノ聖母会 聖マリア病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>看護学への応用を前提とした基礎科目として位置づける。</p> <p>対象である人間の健康状態を看護の立場から判断するために、解剖学、生理学、病理学に関する内容を統合しながら学習していく。看護実践は人間を生物体・生活体の統一体ととらえ、健康上の問題を見抜き、生活過程を整えていく。より個別的で根拠ある最善の看護のためには、日常生活を生物体として身体の中のどの器官を使い、どう行動しているかという点から人体の構造と機能を理解することが重要である。また、健康障害が生じたときにはどう日常生活が規制され、どう変化していくのか予測することで、患者の回復過程を支える看護を学ぶことをねらいとする。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する。 2. 正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を活用し、看護を考える。 3. 正常な人体の構造と機能に関する基礎知識の習得を学ぶ過程において、学習方法を学ぶ。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目：細胞のしくみ 2回目：細胞のしくみと血液 3,4回目：心臓のしくみ 5回目：心音聴取（実践） 6,7,8回目：息をする～肺、気管支～ 9,10回目：体をきれいにする～腎臓～ 11,12回目：捨てる～消化器管～ 13,14回目：感じる～脳神経～ <p>尚、講義内容は解剖生理学の進度を含め考えるため変更する場合がある。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、グループワークや演習を取り入れながら授業を展開する。</p>					
<p>教科書</p> <p>菱沼 典子 看護につなげる 形態機能学 メヂカルフレンド社</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能 ①医学書院</p> <p>橋本尚詞・坂井建雄 ぜんぶわかる 人体解剖図 成美堂出版</p> <p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>からだの構造と機能 学研</p> <p>看護形態機能学 日本看護協会出版会</p> <p>目でみるからだのメカニズム 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>出席状況、終講時試験、発表、提出物状況等で評価する。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	生 化 学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	井上 哲		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>人体は多種多様な物質によって構成されている。生命活動はこれらの物質間で生じる多彩で巧妙に制御された化学反応の流れによって維持されている。本講義では、人体を構成している物質、特に糖質、タンパク質、脂質、核酸などの役割およびそれらの代謝などを概説する。その中で特に糖尿病や脂質異常症などに対する化学的な基本の講義をおこなう。</p>					
授業の進め方					
<p>上記の点に重点をおきながら、教科書にそって進めていきます。</p>					
教科書					
<p>ナーシング・グラフィカ 臨床生化学 人体の構造と機能② メディカ出版</p>					
参考図書					
評価方法					
<p>評価は出席および試験の成績で行う。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学 I	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	王 克鏞		講師所属	産業医科大学	
<p>授業のねらい</p> <p>病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>病気の成り立つメカニズムを理解する。 主な疾患の病理組織所見を理解する。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の領域 2. 細胞・組織とその障害 3. 再生と修復 4. 循環障害 5. 炎症 6. 免疫とアレルギー 7. 代謝異常 8. 先天異常 9. 腫瘍 10. 各論 主な疾患 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書に沿って講義を進める。</p>					
<p>教科書</p> <p>カラーで学べる病理学 第4版 ヌーベルヒロカワ</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅱ	単位(時間数)	1 (12/30)
			【呼吸器】	講義回数	5回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	山岡 賢俊		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>(1) 呼吸器系の構造と機能</p> <p>① 肺・気道・胸郭の構造</p> <p>②呼吸の生理 (換気運動・ガス交換・血液ガス)</p> <p>(2) 症状と病態生理 自覚症状 (咳・たん・胸痛・呼吸困難 など)</p> <p>他覚症状 (チアノーゼ・喘鳴・呼吸の異常 など)</p> <p>(3) 検査 喀痰検査・X線検査・CT・内視鏡・肺機能検査 など</p> <p>(4) 疾患の理解 感染症・間質性疾患・気道疾患・肺循環障害・呼吸不全</p> <p>肺腫瘍・胸膜疾患 など</p> <p>(5) 治療・処置 吸入療法・酸素療法・人工呼吸・胸腔ドレナージ・外科手術</p>					
授業の進め方					
<p>教科書の内容は豊富であるが、それに準じて授業すると時間が足りないので 要点をまとめたプリントに沿って授業を進める。</p> <p>集中力を維持するため、途中で約10分の休憩をとる。</p> <p>授業の印象を高めるため、授業の最後の10分は疾患や画像などのスライドを行う。</p>					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院					
参考図書					
評価方法					
<p>筆記試験</p> <p>腎・泌尿器、アレルギー・免疫・感染症の筆記試験との総合評価となる。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅱ	単位(時間数)	1 (8/30)
			【腎・泌尿器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	吉田 毅 ・ 長野善朗		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎不全 2. 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 3. 膠原病性腎症、腎硬化症、妊娠腎 4. 尿路感染症、尿路結石 5. 腎細胞癌、尿路上皮癌、尿路性器癌 6. 神経因性膀胱、尿失禁 					
授業の進め方					
教科書を中心に講義を進める。					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院					
参考図書					
評価方法					
筆記試験					
呼吸器、アレルギー・免疫・感染症の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅱ		単位(時間数)	1 (10/30)
			【アレルギー・免疫・感染症】		講義回数	5回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	福岡和白病院医師		講師所属			
<p>授業概要</p> <p>1. アレルギー・免疫</p> <p>1) 免疫のしくみ</p> <p>2) 検査と治療</p> <p>3) 症状と疾患の理解</p> <p>2. 感染症</p> <p>1) 感染症とは</p> <p>2) 感染症の診断</p> <p>3) 感染症の治療</p> <p>4) 疾患の理解</p>						
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく教科書に沿って行い、後でもう一度教科書を読む時に理解しやすいように説明していく。 ・small group discussion を用いて講義を行う。 						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑩ 医学書院</p>						
<p>参考図書</p>						
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p> <p>呼吸器、腎・泌尿器の筆記試験との総合評価となる。</p>						

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅲ	単位(時間数)	1 (9/30)
			【運動器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	中島 輝人		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 診断・検査と治療・処置 4. 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性疾患 2) 骨折 3) 脱臼 4) 捻挫および打撲 5) 骨・関節の炎症性疾患 6) 椎間板ヘルニア 					
授業の進め方					
教科書に沿って講義を進めます。					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院					
参考図書					
評価方法					
筆記試験					
内分泌、脳神経の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅲ	単位(時間数)	1 (8/30)
			【内分泌】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	石井 正夫		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>1. 内分泌・代謝器官の構造と機能</p> <p>2. 検査</p> <p>3. 疾患の理解</p> <p>1) 内分泌疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視床下部一下垂体前葉系疾患 ・視床下部一下垂体後葉系疾患 ・副腎疾患 ・甲状腺疾患 ・副甲状腺疾患 <p>2) 代謝疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病 ・高脂血症 ・肥満症 ・尿酸代謝障害 					
授業の進め方					
<p>教科書に沿って講義を進める。</p> <p>なるべく疾患のイメージが持てる様に画像、スライドプロジェクターを利用した講義にする。</p>					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院					
参考図書					
評価方法					
<p>筆記試験</p> <p>運動器、脳神経の筆記試験との総合評価となる。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅲ	単位(時間数)	1 (13/30)
			【脳神経】	講義回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	福山 幸三 他		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳血管障害 (クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞) 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4) 脊髄疾患 5) 神経・筋疾患 					
授業の進め方 教科書に沿って講義を進めます。					
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院					
参考図書					
評価方法 筆記試験 運動器、内分泌の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅳ	単位(時間数)	1 (16/30)
			【消化器】	講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	新海 健太郎		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>それぞれの疾患について、消化器の構造と機能や検査・処置などを振り返りながら学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道疾患 2. 消化性潰瘍 3. 胃癌 4. 腸・腹膜疾患 5. 大腸疾患 6. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患 					
授業の進め方					
教科書にそって講義を進める。					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院					
参考図書					
評価方法					
筆記試験					
血液・リンパ、膠原病の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅳ	単位(時間数)	1 (8/30)
			【血液・リンパ】	講義回数	4回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田口 文博		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理 2. 検査と治療・処置 3. 疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の貧血 ・ 白血病 ・ 悪性リンパ腫 ・ 出血性疾患 など 					
授業の進め方 <p>教科書に沿って講義を進める。</p>					
教科書 <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院</p>					
参考図書					
評価方法 <p>筆記試験</p> <p>消化器、膠原病の筆記試験との総合評価となる。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅳ	単位(時間数)	1 (6/30)
			【膠原病】	講義回数	3回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	兼岡 秀俊		講師所属	福岡和白病院	
<p>授業概要</p> <p>I. 膠原病疾患とその機序</p> <p>II. 症状とその病態生理</p> <p>III. 検査と治療</p> <p>IV. 疾患の理解</p>					
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく教科書に沿って行い、後でもう一度教科書を読む時に理解しやすいように説明していく。 ・small group discussion を用いた講義を行う。 					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑩ 医学書院</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p> <p>消化器、血液・リンパの筆記試験との総合評価となる。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅴ	単位(時間数)	1 (13/30)
			【循環器】	講義回数	6回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	芹川 威 他		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心電図 2) 心臓カテーテル法・心臓カテーテル治療 4. 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 2) 心不全 3) 高血圧 4) 不整脈 5) 弁膜症・感染性心内膜炎 6) 動脈系疾患・静脈系疾患 7) 高脂血症 					
授業の進め方 教科書に沿って講義を進めます。					
教科書 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院					
参考図書					
評価方法 筆記試験 先天異常・新生児の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅴ	単位(時間数)	1 (17/30)
			【先天異常・新生児 ・小児疾患】	講義回数	8回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	宮崎 澄雄		講師所属	福岡和白リハビリテーション学院	
授業概要					
小児の代表的な疾患の病態と治療					
1) 第1回 第1章; 先天異常 第3章; 代謝疾患 第4章; 内分泌疾患					
2) 第2回 第5章; 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 第6章; 感染症疾患					
3) 第3回 第7章; 呼吸器疾患					
4) 第4回 第8章; 循環器疾患					
5) 第5回 第9章; 消化器疾患 第10章; 血液・造血器疾患					
6) 第6回 第11章; 悪性新生物 第12章; 腎・泌尿器疾患					
7) 第7回 第13章; 神経疾患 第14章; 運動器疾患					
8) 第8回 第18章; 精神疾患(発達障害) 第19章; 事故外傷					
授業の進め方					
教科書に沿って講義を進める。					
教科書					
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院					
参考図書					
評価方法					
筆記試験、出席状況により学習者の到達度を評価する。					
循環器の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学VI	単位(時間数)	1 (13/30)
			【女性生殖器】	講義回数	6回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	林 広典		講師所属	そらレディースクリニック	
<p>授業のねらい</p> <p>女性のライフサイクルの中の各時期に発生する主要な女性生殖器疾患と性機能不全について十分に理解して、これらの疾患や機能不全を持つ人のケアを十分に可能とするために、さらに、国家試験出題問題を引用しつつ、看護師国家試験に対する自己対策が立てられるようにするための授業を行う。</p> <p>授業目標</p> <p>女性生殖器疾患や女性機能不全を持つ人の看護が理解できる。また、これらの人の医療における自己決定をサポートするための看護師としての生涯教育の糸口を見出す。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器の構造と機能 2. 診察・検査と治療・処置 3. 疾患について <ol style="list-style-type: none"> 1) 性分化疾患 2) 膣の疾患 3) 子宮筋腫 4) 子宮頸がん、子宮体がん 5) 子宮内膜症 6) 卵管疾患・卵巣疾患 7) 不妊症 8) 性感染症 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書の内容を中心として、必要に応じて資料等を活用しながら講義を進める。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>授業態度・レポート等と終講時テストによる総合評価</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学VI	単位(時間数)	1 (7/30)
			【感覚器：耳鼻咽喉科】	講義回数	3回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	安松 千絵		講師所属	福岡和白総合健診クリニック	
授業のねらい 耳鼻咽喉科の基礎知識を習得し、看護に応用する。					
授業目標 代表的な耳鼻咽喉疾患の病態生理の理解					
授業概要 1. 耳の解剖、生理、疾患 2. 鼻の解剖、生理、疾患 3. 口腔、咽頭、喉頭の解剖、生理、疾患					
授業の進め方 パワーポイントのスライド（プリントにして配布）で、写真や要点を示しながら、テキストの内容をおおまかに説明する。時間が限られており、一つ一つを詳しく説明することができない為、テキストで予習（及び復習）して授業に臨んでほしい。					
教科書 ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚					
参考図書					
評価方法 筆記試験 女性生殖器、感覚器（眼科）の筆記試験との総合評価となる。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学VI	単位(時間数)	1(6/30)
			【感覚器：眼科】	講義回数	3回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	村田 浩司		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>眼科疾患を罹患している患者の看護のために、眼科疾患の各論について学ぶ。</p> <p>眼瞼、結膜、角膜、ぶどう膜、水晶体、網膜、斜視弱視等の疾患各論</p>					
授業の進め方					
<p>教科書を参考に講義を行う。</p>					
教科書					
<p>ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚</p>					
参考図書					
評価方法					
<p>筆記試験</p> <p>女性生殖器、感覚器（耳鼻咽喉科）の筆記試験との総合評価となる。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅵ	単位(時間数)	1(2/30)
			【感覚器：皮膚】	講義回数	1回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	筒井 啓太		講師所属	福岡大学病院	
授業概要					
<p>1. 皮膚とその付属器などの構造と皮膚の種々の機能および生理、スキンケアについての知識を習得し、代表的な皮膚疾患の症状である痒み、発疹および全身疾患に伴う皮膚症状について学習する。さらに、皮膚科的検査と治療法およびそれらの介助について学ぶ。</p> <p>2. 各論として皮膚疾患の原因・症状ならびに治療について各々の疾患について詳しく学習する。</p>					
授業の進め方					
<p>教科書の内容に沿って講義する。</p> <p>皮膚疾患についてスライドを使用して解説する。</p>					
教科書					
ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚					
参考図書					
評価方法					

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学VI	単位(時間数)	1(2/30)
			【感覚器：歯・口腔】	講義回数	1回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	中島 幹雄	講師所属	和白歯科クリニック		
<p>授業のねらい</p> <p>看護師として口腔内への関心を高める。 歯科との医療連携ができる知識を身につける。</p> <p>授業目標</p> <p>歯科への患者紹介を念頭に置けるようにする。</p> <p>授業概要</p> <p>口腔・歯牙の解剖、カリエス、歯周病 歯牙・粘膜疾患、炎症 歯科治療一般 骨折、腫瘍（悪性）と入院、看護 口腔ケア（入院患者） 周術期口腔機能管理について 訪問歯科治療</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>スライドと教科書と資料プリント</p>					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚</p> <p>参考図書</p> <p>口腔外科学 （医歯薬出版）</p>					
<p>評価方法</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	薬 理 学	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	永 渕 学		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床上知っておくべき看護上の薬剤の知識 2. 国家試験でよく出題される薬剤の知識 3. 医療事故と薬剤～リドカイン注射液の濃度について アスピリン喘息について カリウム含有注射液の投与スピードについて など 4. 薬剤と日常生活上の注意点 					
授業の進め方 <p>上記の点に重点をおきながら、教科書にそって進めていきます。</p>					
教科書 <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 医学書院</p>					
参考図書					
評価方法 <p>評価は出席および試験の成績で行う。</p>					

3年課程

領 域	専門基礎分野	授業科目	微生物学		
			単位(時間数)	1 (30)	
				授業回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	下川 修		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>臨床現場における感染症対策、感染制御において看護師の役割は大きい。これらの活動を適切に実践するための正確な知識を習得する。</p> <p>授業目標</p> <p>感染症の原因となる微生物とは何か、感染症の現状、疫学的制御、予防のためのワクチン、治療薬と耐性菌、感染対策のための標準予防策、感染経路別対策について学ぶ。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学総論－微生物とはどのような生物か（細菌、ウイルス、真菌、原虫） 2. 感染症の現状－院内感染、人獣共通感染症、国際感染症、バイオテロ 3. 感染－微生物と生体とのかかわり（感染とはなにか、伝播様式、各種検査・診断法） 実習Ⅰ－手指、鼻腔の細菌検査 4. 感染症の予防とコントロールⅠ（公衆衛生学的対策、感染経路別対策） 5. 感染症の予防とコントロールⅡ（化学療法と免疫療法、滅菌と消毒） 6. 実習Ⅱ－手指、鼻腔の細菌検査の結果判定 7. 生体の感染防御機構－細胞性免疫、液性免疫 感染防御、アレルギー、自己免疫疾患、検査法 8. 細菌感染症総論・各論Ⅰ（グラム陽性球菌・陰性球菌） 9. 細菌感染症各論Ⅱ（グラム陽性桿菌・陰性桿菌、グラム陰性らせん菌、嫌気性菌、マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア） 10. ウイルス学総論・各論Ⅰ（DNAウイルス、RNAウイルス） 11. ウイルス学各論Ⅱ（レトロウイルス、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス）、プリオン病 12. 真菌感染症 総論・各論 13. 原虫感染症 総論・各論 14. まとめ 15. 終講時試験と全体のまとめ 					
<p>授業の進め方</p> <p>講義は教科書、パワーポイントおよび印刷物を使って行う。</p> <p>病院内感染拡大に医療従事者の介在がある。皮膚常在菌、鼻腔常在菌の培養実験を通して、各自の保有する目に見えない細菌の存在を体験する。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ 医学書院</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席率の総合評価</p>					

3年課程

領 域	専門基礎分野	授業科目	治療論	単位(時間数)	1 (9/30)
			【放射線・手術・検査】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	中野 敬太		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <授業目標> 医療の現場で行われている治療の基礎的知識について理解できる。 <授業内容> 1. 放射線療法 1) 放射線医学の成り立ち 2) 検査内容 (X線診断・血管造影・IVR・MRI・超音波診断・核医学診断・放射線治療) 2. 手術療法 1) 手術前・中・後の管理 2) 手術中のモニター 3) 手術後の疼痛管理 3. 検査 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の流れと看護師の役割 3) 系統別臨床検査の進め方 4) 検査の種類 (一般検査・血液検査・化学検査・免疫血清検査・ホルモン検査)					
授業の進め方 講義形式で行う。					
教科書 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院					
評価方法 食事療法、リハビリテーションと併せて一つの試験とし、治療論の評価とする。					

3年課程

領 域	専門基礎分野	授業科目	治療論	単位(時間数)	1 (4/30)
			【麻酔】	講義回数	2回
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	富永 昌宗		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <授業目標> 医療の現場で行われている治療の基礎的知識について理解できる。 <授業内容> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻酔とは 2. 麻酔の管理 3. 麻酔の種類 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔 3) 吸入麻酔 4) 静脈麻酔 5) 脊椎麻酔 6) 硬膜外麻酔 4. 検査データと麻酔上の留意点 5. 麻酔前投薬 					
授業の進め方 講義形式で行う。					
教科書 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院					
参考図書					
評価方法					

領 域	専門基礎分野	授業科目	治療論 【食事療法】		単位(時間数)	1 (10/30)
					講義回数	5回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	田代 忍		講師所属	香椎丘リハビリテーション病院		
<p>授業のねらい</p> <p>臨床で不適切な食事療法が実施されていた場合には気付けるようになる。</p> <p>授業目標</p> <p>各疾患に合わせた食事療法を“栄養素と代謝”レベルで理解できるようになる。</p> <p>授業概要</p> <p>栄養素が身体のなかでどの様に利用されているのかを理解し、 各疾患別栄養療法と結び付けていく。</p>						
<p>授業の進め方</p> <p>教科書に沿って授業を進めていく。</p>						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院</p>						
<p>参考図書</p>						
<p>評価方法</p> <p>放射線・手術・検査、リハビリテーションと併せて一つの試験とし、治療論の評価とする。</p>						

3年課程

領 域	専門基礎分野	授業科目	治療論	単位(時間数)	1 (7/30)
			【リハビリテーション】	講義回数	3回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤本 一美		講師所属	福岡和白リハビリテーション学院	
授業概要					
<p><授業目標></p> <p>医療の現場で行われている治療の基礎的知識について理解できる。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意義・目的 2. リハビリテーションにおける評価 身体機能障害の評価 徒手筋力検査・関節可動域検査・ADL評価、FIM（機能的自立度尺度）、IADL評価法等 3. リハビリテーション療法の種類と特徴 運動療法・呼吸リハビリテーションの種類と特徴 4. リハビリテーションの実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脳血管障害者のリハビリテーション 良肢位保持と体位変換 関節可動域訓練 座位バランス 基本動作訓練 筋力増強訓練 等 (2) 呼吸障害患者のリハビリテーション 呼吸法、呼吸体操、排痰のための用手の手技、体位排痰法 等 (3) 運動障害患者のリハビリテーション 					
授業の進め方					
<p>講義と演習を中心に行う。</p> <p>麻痺をもった患者を想定しながら、本人の残存機能を活かしたリハビリテーションについて演習を通して教授する。また呼吸理学療法については術前・術後、COPDの患者への呼吸リハビリテーション演習を通して教授する。</p>					
教科書					
ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版					
参考図書					
評価方法					
放射線・手術・検査、食事療法と併せて一つの試験とし、治療論の評価とする。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	保健医療論 I	単位(時間数)	1 (13/15)
				講義回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	富永 隆治・中島 淳博 他		講師所属	福岡和白病院	
授業目標 保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点、その問題発生の背景を知り、専門職として社会の貢献する方向性、視点を理解する。					
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療の歩み、診断と治療、医療を支える人々 2. 健康の概念とヘルスプロモーション 3. わが国の医療供給体制 4. 現代医療における諸問題 <p style="text-align: center;">救急医療、へき地医療、生老病死を考える</p>					
授業の進め方 教科書を中心に講義形式とする。					
教科書 新体系 看護学全書 6 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社					
参考図書 新聞					
評価方法 課題レポートとテストによる総合評価					

領 域	専門基礎分野	授業科目	保健医療論 I	単位(時間数)	1 (2/15)
				講義回数	1回
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	鍋嶋 隆志		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>法治社会における問題の解決方法を知ることにより、医療者の法的責任の知識習得と自覚を促進する。</p> <p>授業目標</p> <p>民事責任（とりわけインフォームドコンセントの重要性）、刑事責任、行政上の責任について、事例に基づき理解を促す。</p> <p>授業概要</p> <p>具体的判断を紹介したうえで、医療者の法的責任について、講義する。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>事前に配布した資料（判例）を読んでもらった前提で、講義を行う。</p>					
<p>教科書</p> <p>参考図書</p> <p>事前配布教材</p>					
<p>評価方法</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	保健医療論Ⅱ	単位(時間数)	1 (15/30)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田中 淳子他1名		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	独立行政法人国立病院機構九州医療センターにて助産師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における諸問題をふまえ、看護師としての倫理的判断力が身に着ける。 2. 種々の健康問題を知り、地域住民や患者の抱えている生活上の諸問題について考え、医療・保健・福祉の改善のための基礎的な能力を養う。 <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理について考えることができる。 <p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 倫理とは(担当：田中) <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護倫理を学ぶ意義 2) 看護倫理とは 3) インフォームドコンセントと自己決定権 4) 医療従事者の法的責任 2・3回目 生命倫理(担当：田中) <ol style="list-style-type: none"> 1) 出生前診断と倫理 2) 生殖補助技術と倫理 4・5回目 終末期医療(担当：野崎) <ol style="list-style-type: none"> 1) 死と生命保持 2) ターミナルケアでの医療者の役割 3) 在宅医療における患者の権利 6回目 拘束と安全(担当：田中) 7回目 倫理を考える(担当：田中) 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会状況を反映したビデオやレポートなどを取り入れながら講義を進める。 2. グループワーク 					
<p>教科書</p> <p>看護学概論 基礎看護学① 医学書院</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>レポート評価 倫理とは。生命倫理：30点 終末期医療：10点 拘束と安全：10点 指定日時にレポートを提出しない場合は評価資格を喪失する事があるので注意する。 また、グループワークの参加度・授業態度も評価の対象となる。 高原先生と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	保健医療論Ⅱ	単位(時間数)	1 (15/30)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	高原 和子		講師所属	福岡女学院大学	
授業概要					
理論と実践を通して、健康づくりに必要な知識と運動の基礎を学びながら、健康づくり支援の技術と能力を修得する。また、積極的に運動・スポーツを実践する態度や能力を養い、生涯にわたり健康・体力づくりを実践する態度を育て、自分自身の健康観について考察できる力を身につける。					
【理論】			【実技】		
<ul style="list-style-type: none"> ・体力と健康、体力と運動について ・運動、身体活動における身体メカニズム ・運動と消費エネルギー ・健康づくりのための運動処方 			<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションや身体活動をとおしたコミュニケーションの実際 ・体力づくりのための運動・スポーツの実際 ・対象に合わせた運動・身体活動の実際 		
授業の進め方					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、体力と健康、体力と運動の関係について 2. レクリエーション活動をとおしたコミュニケーションの実際 3. ニュースポーツの実際 4. 体力づくりのための運動・スポーツの実際 5. 対象（中高年、子ども）に合わせた運動・身体活動の実際 6. 運動・身体活動における身体メカニズム（身体エネルギーシステム） 7. 運動と消費エネルギー、効果的な運動の進め方、健康づくりのための身体活動指針 8. 試験 					
教科書					
特になし					
参考図書					
評価方法					
授業への取り組み態度、レポート、筆記試験等を総合し評価する。					
田中淳子他講師と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。					

領 域	専門基礎分野	授業科目	社会福祉 I	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	日高 浩太郎		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>国家試験に対応できる力をつける。</p> <p>授業目標</p> <p>社会福祉の法体系と法の詳細を理解する。また、現在の福祉の実情を知る。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の歴史 2. 社会保障の体系(その中の社会福祉の位置づけ) 3. 社会福祉の本質と目的 4. 社会福祉各論 (現状も含めて示す) <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉 (児童虐待の現状) (2) 高齢者福祉 (高齢者虐待の現状) (3) 障害者福祉 (本当の平等とは?) (4) 母子・父子・寡婦福祉 (家庭内暴力の現状) 					
<p>授業の進め方</p> <p>1～3まではテキスト、板書、プリントで解説する。</p> <p>4は、テキストで基本的な枠組みを確認した後、新聞などで収集した現状と問題点を示す。また、国家試験の過去問を用いながら、傾向と対策を示す。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向</p>					
<p>評価方法</p> <p>原則、筆記試験。ただし、欠席、授業に真摯に向き合わない場合、平常点を減点する。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	社会福祉Ⅱ		単位(時間数)	1 (15)
					講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	日高 浩太郎		講師所属			
<p>授業のねらい</p> <p>国家試験に対応できる力をつけることと、社会福祉と医療・看護との連携を把握する。</p> <p>授業目標</p> <p>社会福祉Ⅰで盛り込めなかった部分を学習し、社会福祉と医療・看護の連携をできるだけ具体的場面に即しながら解説する。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活保護の仕組みと現状（生活保護の問題点と脱却） 2. 社会保険各論（医療・年金・労災・雇用・介護） 3. 社会福祉の援助の種類 4. 社会福祉と医療・看護の連携 5. 終末医療と看護 						
<p>授業の進め方</p> <p>1～2はテキストで基本的な枠組みを確認した後、新聞などで収集した現状と問題点を示す。また、1～5まで国家試験の過去問を用いながら、傾向と対策を示す。</p>						
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院</p>						
<p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向</p>						
<p>評価方法</p> <p>原則、筆記試験。ただし、授業に真摯に向き合わない場合、平常点を減点する。</p>						

領 域	専門基礎分野	授業科目	関係法規	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	西 貴倫		講師所属	九州大学	
<p>授業のねらい</p> <p>医療をとりまく状況が刻々と変化する中、看護師の資格や業務に関係する法令も日々改められています。この授業のねらいは、そのような社会状況の変化をふまえた上で、看護師関係法規の要諦を押えることにあります。</p> <p>授業目標</p> <p>国家試験に向けて、看護師の資格や業務に関係する法令について、正確な知識と理解を得ることを目標とします。</p> <p>授業概要</p> <p>初回はガイダンスとして「医療と法律の関係」を、以降回ごとに、「保健師助産師看護師法」、「医師法／医療法」、「薬機法／薬剤師法」、「社会保障法」、「健康福祉法」、「労働法その他の関係法規」をとりあげる予定です。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>毎回、授業内容についてまとめたレジメを配布して、それに解説を加えていきます。 板書をしますので、必ずノートやメモを取るように心がけてください。 また、授業中に内容の確認として、過去問等の簡単な小テストを行います。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>適宜、授業中に紹介します。</p>					
<p>評価方法</p> <p>終講時の試験によって評価します。</p>					

領 域	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	吉田 貴美代		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>公衆衛生活動を学び、人々の健康とは何か、健康づくりのための組織、医療従事者としての役割機能への理解を深める。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生活動の領域・特徴を学ぶ。 2. 健康の定義と予防医学、健康づくりについて学ぶ。 3. 地域、職域保健活動の取組みを学ぶ。 4. 健康と環境について学ぶ。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念・健康づくりとヘルスプロモーション 2. 国際保健・保健行政（国・都道府県・市町村の役割） 3. 疾病の疫学と国民の健康と保健統計 4. 地域保健（感染症対策） 5. 産業保健 6. 健康と環境 7. 学校保健 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書の内容に沿って講義を行う。</p> <p>国民衛生の動向を参考図書とする</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向2020/2021 (厚生統計協会)</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験による評価</p>					

専門分野 I

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学 I - 1	単位(時間数)	1 (30)
			【概論】	講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	淀川 めぐみ		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	独立行政法人 国立病院機構 九州医療センターほかで看護師として勤務				

授業のねらい

基礎看護学 I - 1 とは、看護学概論であり、看護学を学ぶ目的や看護の概要を理解するための科目である。この授業の目的は、「看護とは」何かを考え、理解できるようになることである。看護の主要概念、看護師としての基本的姿勢について学んでほしい。

授業目標

1. 看護の対象について理解し、全人的に人間をとらえる視点をもつことができる。
2. 看護の概念を理解し、それを基盤に、看護の基本となる理論を理解することができる。
3. 健康のとらえ方を知り、国民の健康と生活について考えることができる。
4. 看護の機能と役割、保健医療福祉チームについて理解することができる。
5. 看護倫理の原則を理解し、臨床判断の基盤として位置づけることの重要性を理解することができる。
6. 看護の歴史の変遷、専門性、発展性について理解することができる。

授業概要

回数	内容	授業形態	回数	内容	授業形態
1回	1. 看護師とは 2. 「看護」について考える ナイチンゲールのいう看護	講義	10回 11回	1. 看護における倫理	講義 GW
2回 3回	1. 看護の役割と機能	DV D視聴 GW	12回	1. 実践科学としての看護 2. 看護の提供のしくみ	講義 GW
4回 5回	1. 看護の対象である人間を理解する 2. 独自性のある人間	講義 GW	13回	1. 看護のスペシャリスト 「がん看護専門看護師の役割の実際」	講義
6回 7回	1. 「健康」について考える	講義 GW	14回	1. 看護の歴史 2. 看護の提供者の教育 3. 看護職者のキャリア教育	講義
8回 9回	1. 看護理論家にみる看護の定義	講義 GW	15回	終講時試験	

*開講時に詳細な計画を提示する。

授業の進め方

看護専門職者としての基礎的な知識や考え方を学ぶ科目なので自らの看護観を模索しながら受講する。講義は一斉講義、GW、発表など取り入れて行うので積極的に学習する。

担当者作成の講義資料を配布するので自分でノート、資料作成を行いながら学習する。

予習のあり方；初日に日程の詳細を示すので、教科書、参考書の該当章を必ず読んで講義にのぞむ。

復習のあり方；講義で紹介した様々な用語の概念や定義について、再度復習し理解を深めておく。

夏期休業の課題

夏期休業前に指示する。

教科書

- 1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院
- 2) F. ナイチンゲール著 湯槇ます他訳：看護覚え書 現代社
- 3) V. ヘンダーソン著 湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

参考図書

- 1) 黒田裕子監修：やさしく学ぶ看護理論 第4版 日総研

評価方法

出席状況、終講時試験、レポート、発表、課題の提出状況等を踏まえて総合的に評価する。

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学 I - 2	単位(時間数)	1 (30)
			【理論】	講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	小池 久美		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>看護実践のベースとなる看護理論について理解を深め、看護の方向性を導く基礎を学ぶことをねらいとする。また、看護理論の分類とケア実践の関係について理解できるようになることをめざす。さらに、自分が実施した看護援助を看護理論をもとに振り返ることによって、看護実践を概念化して捉えることができるようになることをめざす。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践のベースとなる各看護理論の考え方と分類が理解できる。 2. 自分が実施した過去の看護援助を看護理論をもとに振り返ることによって、看護実践を概念化して捉えることができる。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の分類 1) 大理論 2) 中範囲理論 3) 小理論 2. 看護理論の変遷 3. 看護の枠組みと方向性を導く看護理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間関係論に基づく看護理論 ペプロウ トラベルビー オーランド 2) システム論に基づく看護理論 オレム ロイ 3) ケア理論 ワトソン 4) ベナーの看護理論など 4. 自分自身の過去の看護援助を看護理論をもとに振り返る（発表会の実施） <p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループワークや個別課題を中心に授業を進める。 ② 自分が実施した過去の看護援助を看護理論をもとに振り返る中で、自らの看護観を模索しながら受講する。 ③ 看護実践者として基礎となる思考を学ぶ科目であるため、自己の考えを見つめながら参加する。 <p>教科書 : 黒田裕子 やさしく学ぶ看護理論 日総研 高橋百合子 看護学生のためのケース・スタディ 第4版 メヂカルフレンド社</p> <p>参考図書 : 黒田裕子 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 学研</p> <p>* その他、看護理論家の中から1人選び、書籍を図書室などから借りたり購入したりしましょう</p> <p>評価方法</p> <p>最終評価は、課題レポートを評価します。その他、グループワーク参加状況、授業への取り組み状況も加味します。</p>					

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅱ 【コミュニケーション】	単位(時間数)	1 (30)																																																	
				講義回数	14回+テスト																																																	
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年																																																	
担当講師	淀川 めぐみ		講師所属	福岡看護専門学校																																																		
実務経験	独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター他で看護師として勤務																																																					
<p>授業のねらい</p> <p>看護師は、患者や家族、同僚や他職種など様々な人間関係の中で看護を展開していく。人間関係形成の基盤はコミュニケーションであり、相手の表面的な言動だけでなく、その奥になる気持ちや価値観などにも関心を寄せる必要がある。さらに、患者・家族とかかわっている自分自身の思考、感情、行動にも気づき自己洞察していく必要がある。看護実践のベースとなる対象理解のために必要なコミュニケーションの意義・目的・方法を学ぶことを目指す。また、看護実践のプロセスを担う情報収集、看護実践を表現する意義と方法を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの要素や特性を学び、コミュニケーションのプロセスについて理解する。 2. 患者-看護師関係と看護師の関わりの意義について理解することができる。 3. 看護実践に重要な内省することの意義を学ぶことができる。 4. 情報収集と看護記録の方法および報告の方法について理解することができる。 <p>授業概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>授業形態</th> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護技術とは何か コミュニケーションの意義と目的</td> <td>講義 GW</td> <td>8</td> <td>情報収集の技術</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護師がコミュニケーションを学ぶ意義 関係構築のためのコミュニケーションの 基本</td> <td>講義 ロールプ レイ</td> <td>9 10</td> <td>看護記録とは：意義と目的 看護記録の構成要素と記載・管理にお ける留意点 看護記録・診療情報の取り扱い</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コミュニケーションに必要な態度</td> <td>講義 ロールプ レイ</td> <td>11</td> <td>体温表の書き方 報告の意義と目的</td> <td>講義 GW</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td rowspan="2">効果的なコミュニケーションの技法とそ の実際 アサーティブコミュニケーション コーチングコミュニケーション</td> <td rowspan="2">講義 ロールプ レイ</td> <td>12</td> <td>「プロセスレコード」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>13</td> <td>よりよい対人関係のために</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>14</td> <td>カンファレンス</td> <td>講義 GW</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>リフレクションとは</td> <td>講義</td> <td rowspan="2">15</td> <td rowspan="2">終講時試験・まとめ</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>リフレクションの意義とその実際</td> <td>課題</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書の内容に、資料を追加して配布する。 ②ロールプレイなどの技術を取り入れながら授業を展開する。 ③適宜、課題を提示する。 <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>「看護場面の再構成」 著：宮本眞巳 日本看護協会出版会</p> <p>評価方法</p> <p>講義への参加状況、課題の提出状況、最終時試験にて評価する。</p>						回数	学習内容	授業形態	回数	学習内容	授業形態	1	看護技術とは何か コミュニケーションの意義と目的	講義 GW	8	情報収集の技術	講義	2	看護師がコミュニケーションを学ぶ意義 関係構築のためのコミュニケーションの 基本	講義 ロールプ レイ	9 10	看護記録とは：意義と目的 看護記録の構成要素と記載・管理にお ける留意点 看護記録・診療情報の取り扱い	講義	3	コミュニケーションに必要な態度	講義 ロールプ レイ	11	体温表の書き方 報告の意義と目的	講義 GW	4	効果的なコミュニケーションの技法とそ の実際 アサーティブコミュニケーション コーチングコミュニケーション	講義 ロールプ レイ	12	「プロセスレコード」	講義	5	13	よりよい対人関係のために	GW				14	カンファレンス	講義 GW	6	リフレクションとは	講義	15	終講時試験・まとめ		7	リフレクションの意義とその実際	課題
回数	学習内容	授業形態	回数	学習内容	授業形態																																																	
1	看護技術とは何か コミュニケーションの意義と目的	講義 GW	8	情報収集の技術	講義																																																	
2	看護師がコミュニケーションを学ぶ意義 関係構築のためのコミュニケーションの 基本	講義 ロールプ レイ	9 10	看護記録とは：意義と目的 看護記録の構成要素と記載・管理にお ける留意点 看護記録・診療情報の取り扱い	講義																																																	
3	コミュニケーションに必要な態度	講義 ロールプ レイ	11	体温表の書き方 報告の意義と目的	講義 GW																																																	
4	効果的なコミュニケーションの技法とそ の実際 アサーティブコミュニケーション コーチングコミュニケーション	講義 ロールプ レイ	12	「プロセスレコード」	講義																																																	
5			13	よりよい対人関係のために	GW																																																	
			14	カンファレンス	講義 GW																																																	
6	リフレクションとは	講義	15	終講時試験・まとめ																																																		
7	リフレクションの意義とその実際	課題																																																				

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅲ		単位(時間数)	1(30)
					講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年	
担当講師	野村 あす美		講師所属	福岡看護専門学校		
実務経験	済生会福岡総合病院などで看護師として勤務					
授業のねらい						
対象の健康状態を系統的に情報収集し、査定する基礎的能力を養う。						
授業の目標						
1. 対象の健康状態を査定する意義と方法を理解する。						
2. 系統的アセスメントの実際を学び、バイタルサイン測定技術を習得する。						
3. 呼吸・循環を整える技術を学び、口鼻腔吸引の技術を習得する。						
授業概要						
疾病を患う患者は、身体面および精神面・社会面にさまざまな問題を抱えている。患者の状態を客観的に把握し、分析することはこれらの問題解決の糸口となり、患者を安寧な状態に導く手立てとなる。この基礎看護学Ⅲでは、フィジカルアセスメントの理論と実践としてバイタルサインの意味とその観察技法を中心とした身体的状態を把握する観察の知識と技術を身につける。また、その結果得られる情報を手がかりとした呼吸・循環を整える技術について学ぶ。						
第1回：フィジカルアセスメントとは何か						
第2回：フィジカルイグザミネーションとバイタルサインの意義						
第3～7回：フィジカルイグザミネーションとバイタルサイン測定の実際						
1) 意識状態 2) 体温 3) 脈拍 4) 呼吸 5) 血圧						
第8回：身体測定の意義と技術						
第9～12回：呼吸を整える技術(吸入；薬液・酸素、吸引；気管内・口鼻腔)						
第13～14回：循環を整える技術(罨法)						
授業の進め方						
1. 教科書、資料、DVDをもとに講義を進める。						
2. 胸腹部のフィジカルアセスメントを通し、問診・視診・聴診・触診・打診などフィジカルイグザミネーションの基本技術のほか、バイタルサイン測定の演習を行う。						
3. 吸入(酸素・薬液)・吸引、罨法をはじめとする呼吸・循環を整える看護技術の演習を行う。						
教科書						
1. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院						
2. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院						
3. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院						
参考図書						
適宜紹介する。						
評価方法						
終講時筆記試験、及び課題レポート、授業への取り組み状況を加味する。						

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅳ 【感染予防】	単位(時間数)	1 (13/30)
				授業回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	本村 彰子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	九州大学病院で看護師として勤務				
授業のねらい 医療の提供現場は、絶えず感染の可能性のある環境である。つまり、感染症の患者の治療など一般社会よりも感染源に接する機会が多い場所である。その一方で、免疫機能の低下した患者、免疫機能が未発達な新生児や未熟児、手術や外傷、熱傷により病原体に対するバリア機能の脆弱化した患者など、感染を受けやすい状況にある人々が集中している場所でもある。このような患者がひとたび感染症を発症すると、入院期間の延長だけでなく、命を脅かすことにもなる。看護師は、治療を受ける人々が二次感染を起こすことなく健康回復できるように、積極的に感染予防対策を実践する必要がある。 本単元では、感染予防対策についての知識を深め看護師に必要な感染予防技術について学ぶ。					
授業目標 1. 感染予防の意義と感染予防策の概要が理解できる。 2. 感染源への対策として、医療器材の洗浄・滅菌・消毒の方法及び適応対象と留意点について学び、正しく実践できる。 3. 感染経路への対策として、手洗いの方法、個人防護用具の使用法について学び重要性を認識し実行できる。 4. 滅菌物の取り扱いの方法と留意点を学び、原理・原則に沿った基本的な滅菌操作ができる。 5. 隔離と感染源の拡散防止について学び、感染性廃棄物の取り扱いが正しく実践できる。					
授業の概要 1回目．感染予防の基礎知識・標準予防策 2回目．感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 3回目．感染性廃棄物の取り扱い、カテーテル関連血流感染対策、針刺し防止策 4回目．標準予防策（衛生的手洗い・滅菌手袋の着脱）：演習 5回目．無菌操作（滅菌物の受け渡し）：演習 6回目．技術チェック（滅菌物の受け渡し）					
授業の進め方： ①教科書・DVD・資料などの教材を使用し技術習得のために、学内演習を交えながら行う。 ②無菌操作については全員確実に修得するために、技術チェックを行う。					
教科書 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院					
評価方法 基礎看護学Ⅳは環境（50点）と+感染予防（50点）の合計で評価する。 授業の参加度・技術チェック・終講時テストによる総合評価を行う。					

3年課程

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (17/30)
			【環境】	講義回数	8回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	岩本 秀美		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	福岡大学病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>療養に適した環境で生活することは、患者自身が疾病を治そうとする自然治癒力や闘病意欲の向上などにつながっていく。そのため病室は「治療の場」として考えるだけでなく「生活の場」として認識する必要がある。環境調整を行う事は看護師にとって重要な役割といえる。この授業では「環境」とは何かを理解し、環境を整える方法を学習していく。根拠に基づき身体全体を動かし反復練習をして環境調整技術を習得することを目標とする。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 療養生活の環境を理解し対象にとって快適な場であるための環境の視点を理解することができる 患者の生活環境の条件と、人的環境としての看護師の役割が理解できる。 快適で清潔な病床を保つためのベッド周囲の環境整備とベッドメイキング技術を習得することができる。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 環境とは、療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整 病床を整える 5. ベッドメイキング演習 ベッドメイキング 技術チェック 臥床患者のシーツ交換 (演習) 臥床患者のシーツ交換、療養環境を整える意義 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科書の内容を中心に資料を参考にしながら進める。 ②認識と表現を統合するために、デモンストレーション・演習・実習室の環境整備を通し学習する。 ③ベッドメイキングの練習を行い、技術チェックを行う。 					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>基礎看護学Ⅳは環境 (50点) +感染予防 (50点) の合計で評価する。 環境については終講時筆記試験と技術チェック、出席・授業への取り組み状況をふまえて評価を行う。技術チェックはベッドメイキングの実技チェックを行う。</p>					

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学V	単位(時間数)	1 (30)
			【看護過程】	講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	濱野 敦子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	福岡新行橋病院ほかで看護師として勤務				
授業のねらい 看護過程とは、健康上援助を必要とする対象との相互作用に基づいて行う看護上の問題解決過程である。人間を全体的・統合的に捉え、いかに看護援助を意図的・科学的に行っていくのか追求し、その能力を養う。					
授業目標 1. 看護過程の意義が理解できる。 2. 看護過程の構成要素とプロセスが理解できる。 3. 紙上事例を用いて、看護計画立案までの看護過程展開が理解できる。 4. 健康問題解決への思考のプロセスが理解できる。					
授業概要 第1回 看護過程とは 第2回 情報収集 第3回 ゴードンの機能的健康パターン 第4回 アセスメント (情報の分析・解釈) 第5回 アセスメント グループにて検討 第6回 アセスメント後の仮診断 第7回 関連図の書き方 第8回 看護診断とは 第9回 看護計画とは 第10回 事例紹介 情報収集 第11回 事例アセスメント 第12回 事例関連図 第13回 事例看護診断 第14回 事例看護計画 第15回 終講時試験					
授業の進め方 ① 教科書及び資料を参考にしながら積極的に学習する。 ② 看護過程の導入とし「思考訓練」として、自分自身の生活体験を客観的に記述する演習に取り組む。 ③ 1事例を通して、授業を展開する。 →学習理解のために、講義終了毎に課題として事例を展開する。課題の中でモデルを参考資料とし、ディスカッションの中で学習を深める。病理学が終講している1事例を課題として個人で取り組み、提出し、プロセスの5段階を展開することで理解を深める。					
教科書 系統看護学講座 専門I 基礎看護技術I 基礎看護学② 医学書院 リンダJカルペニート「看護診断ハンドブック」 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーヴェルヒロカワ					
参考図書 黒田裕子 「わかりやすい看護過程」 照林社 任 和子 「実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド」 照林社 古橋洋子 「患者さんの情報収集ガイドブック」 メヂカルフレンド社 ※その他、授業中に適宜資料を配布し参考資料として使用する。					
評価方法 ・看護過程展開 (30%)、講義の受講態度、課題の提出状況を含め終了時テスト (70%) による総合評価を行なう。					

3年課程

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学VI	単位(時間数)	1 (12/30)
			【食】	講義回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	本村 彰子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	九州大学病院で看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>看護実践における「食」に関する心身の諸機能の性質、社会文化的な意味、およびそれらが障害されたときの影響を理解し、看護援助の目標と方法を導きだすための看護の基礎知識を養う。また、基本的な技術を習得する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食の意義、消化・吸収のメカニズム・健康障害時の食と食行動のアセスメントが理解できる。 2. 食行動障害と援助の判断・方法、非経口的栄養法について理解する。 3. 食に関する基本的援助技術が理解できる。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目. 食事に関する基礎、食事の意義、消化吸収のメカニズム 2回目. 食生活の援助に関する基礎知識 3回目. 健康障害と食生活 4回目. 経口的食事摂取に障害がある患者への援助 5回目. 食事介助のデモンストレーションと演習 6回目. 症例を通して食事援助を考える 					
<p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、演習やグループワークを取り入れながら授業を展開する。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>授業時適宜紹介する。</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、レポート、出席・授業への取り組み状況 基礎看護学VI【排泄】の筆記試験と合わせて1つの試験とする。</p>					

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学VI	単位(時間数)	1 (18/30)
			【排泄】	講義回数	8回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	本村 彰子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	九州大学病院で看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>人間の生活における「排泄」の意義や必要性、生活行動を把握するための視点や影響因子を理解する。そして、人間が「病気」となったときに、「排泄」がその人にとって適した状態であるように援助するための基礎的な方法を習得することをめざす。また、看護技術の特殊性は、対象が人間であること、対象者と看護師との相互関係の中で成立することにある。対象者を尊重した態度など演習を通して学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>患者の日常生活上の「排泄」を援助するために、看護師として必要な考え方や基礎的な方法を修得する。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目. 排泄の意義・メカニズム、排泄の基本的援助 2回目. 排泄のアセスメント、排泄障害と援助 3回目. ポータブルトイレ、床上排泄（尿器・便器の挿入）の援助 4回目. 床上排泄（おむつ交換）の援助 5回目. 床上排泄（陰部洗浄）の援助 6回目. 浣腸のデモンストレーション、演習 7回目. 導尿のデモンストレーション、演習 8回目. 事例に基づいた排泄援助 <p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、グループワークや演習を取り入れながら授業を展開する。 事例に基づいて、援助の必要性や目的、方法を考え、グループで話し合い、身体を動かしながら学習する。</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>看護技術の根拠本 : メヂカルフレンド社 看護技術講義・演習ノート : 医学芸術社 基礎看護技術ガイド : 照林社 なぜ？がわかる看護技術 LESSON : 学研</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験、レポート、出席・授業への取り組み状況 基礎VIの「食事」と合計して総合的に評価する。</p>					

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅶ	単位(時間数)	1 (30)																												
			【活動・休息・身体清潔】	講義回数	14回+テスト																												
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年																												
担当講師	折居 夏美		講師所属	福岡看護専門学校																													
実務経験	社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院で看護師として勤務																																
<p>授業のねらい</p> <p>人間の生活における「活動」「休息」「清潔・衣生活」等の生活行動の意義や必要性、それぞれの生活行動を把握するための視点や影響因子を理解する。そして、人間が「病気」となったときに、「活動と休息」「清潔・衣生活」がその人にとって適した状態であるように援助するための基礎的な方法を習得することをめざす。また、看護技術の特殊性は、対象が人間であり、対象者と看護師との相互関係の中で成立することにある。対象者に関心をむけ、尊重する態度を通して学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>患者の日常生活上の「活動と休息」、「清潔と衣生活」を援助するために、看護師として必要な考え方や基礎的な方法を修得する。</p> <p>授業概要</p> <table border="1"> <tr> <td>1回目</td> <td>授業ガイダンス、活動・休息の意義、廃用症候群、活動援助の種類、褥瘡</td> <td>8回目</td> <td>演習(洗髪)</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>ボディメカニクス、体位変換、体位保持、演習(体位変換)</td> <td>9回目</td> <td>演習(足浴・手浴、爪きり)</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>車椅子・ストレッチャーの移乗・移送、杖歩行、演習(車椅子・ストレッチャー)</td> <td>10回目</td> <td>演習(口腔ケア、髭剃り)</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>車椅子移乗・移送 発表会</td> <td>11回目</td> <td>技術チェック(車椅子)</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>休息、睡眠、安楽について</td> <td>12回目</td> <td>清拭・寝衣交換 発表会</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能、熱産生と熱放散、被服気候、頭皮・毛髪の機能</td> <td>13回目</td> <td>技術チェック(清拭・寝衣交換)</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>演習(清拭・寝衣交換)</td> <td>14回目</td> <td>演習(清拭・寝衣交換)</td> </tr> </table> <p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、グループワークや演習を取り入れながら授業を展開する。 事例に基づいて援助の必要性や目的、方法を考え、チームで話し合い、身体を動かして学習する。 デモスト・演習・技術チェックをおこない、基礎的な技術習得を目指す。演習の前には、事前予習(テキスト、ビデオの視聴など)を必ず行い臨む。演習時には患者体験を活用し取り組む。そして、個々での技術練習とその振り返りを活用し技術の習得に励む。技術チェックを行う項目は、全身清拭・更衣、移送・移動である。(体位変換については、各援助項目の中に含む。)</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版株式会社 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験と技術チェック、レポート、出席・授業への取り組み状況をふまえた総合評価</p>						1回目	授業ガイダンス、活動・休息の意義、廃用症候群、活動援助の種類、褥瘡	8回目	演習(洗髪)	2回目	ボディメカニクス、体位変換、体位保持、演習(体位変換)	9回目	演習(足浴・手浴、爪きり)	3回目	車椅子・ストレッチャーの移乗・移送、杖歩行、演習(車椅子・ストレッチャー)	10回目	演習(口腔ケア、髭剃り)	4回目	車椅子移乗・移送 発表会	11回目	技術チェック(車椅子)	5回目	休息、睡眠、安楽について	12回目	清拭・寝衣交換 発表会	6回目	清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能、熱産生と熱放散、被服気候、頭皮・毛髪の機能	13回目	技術チェック(清拭・寝衣交換)	7回目	演習(清拭・寝衣交換)	14回目	演習(清拭・寝衣交換)
1回目	授業ガイダンス、活動・休息の意義、廃用症候群、活動援助の種類、褥瘡	8回目	演習(洗髪)																														
2回目	ボディメカニクス、体位変換、体位保持、演習(体位変換)	9回目	演習(足浴・手浴、爪きり)																														
3回目	車椅子・ストレッチャーの移乗・移送、杖歩行、演習(車椅子・ストレッチャー)	10回目	演習(口腔ケア、髭剃り)																														
4回目	車椅子移乗・移送 発表会	11回目	技術チェック(車椅子)																														
5回目	休息、睡眠、安楽について	12回目	清拭・寝衣交換 発表会																														
6回目	清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能、熱産生と熱放散、被服気候、頭皮・毛髪の機能	13回目	技術チェック(清拭・寝衣交換)																														
7回目	演習(清拭・寝衣交換)	14回目	演習(清拭・寝衣交換)																														

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅷ 【検査・与薬・ME】	単位(時間数)	1 (30)																																
				講義回数	14回+テスト																																
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年																																
担当講師	大園 久美子		講師所属	福岡看護専門学校																																	
実務経験	長崎大学病院、九州大学病院等で看護師として勤務																																				
<p>授業のねらい</p> <p>看護師としての専門的知識と、専門職業人としての責任と倫理性をもち、患者が安心して診療が受けられるように医療環境を整えることが必要である。検査や治療・処置における看護師の役割を理解し、基本的な診療の補助技術について理解できるようになることを目指していく。</p> <p>授業目標</p> <p>診療の補助技術について、看護師として必要な知識・技術・態度を習得することができる。</p> <p>授業概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>与薬の基礎知識 与薬の種類と看護</td> <td>8</td> <td>点滴静脈内注射 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>筋肉内注射・皮下注射・皮内注射の方法</td> <td>9</td> <td>筋肉内注射・静脈内採血 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>筋肉内注射 演習</td> <td>10</td> <td>技術チェック(筋肉内注射)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>検査の意義と看護師の役割・静脈血採血の方法</td> <td>11</td> <td>技術チェック(静脈血採血)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>静脈血採血 演習</td> <td>12</td> <td>創傷処置・創傷治癒過程・包帯法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>診察・検査・処置の介助技術</td> <td>13</td> <td>放射線暴露・抗がん剤暴露・輸血の管理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>点滴静脈内注射の方法</td> <td>14</td> <td>検査・与薬・MEまとめ</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業の進め方</p> <p>講義は一斉講義, DVD などを取り入れて行う。 検査、輸血管理についてグループワーク・発表を行う。 演習：静脈血採血法・薬液の吸い上げと注射法・包帯法、ME機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ) 技術チェック：静脈血採血・筋肉内注射</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護学総論 基礎看護学④ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>深井喜代子：Q&A でよくわかる！看護技術の根拠本 エビデンスブック. メジカルフレンド社 山口瑞穂子：看護技術講義・演習ノート 下巻 診療に伴う看護技術篇. 医学芸術社 中村正夫ほか：看護必携シリーズ 14 検査時の看護. 学研</p> <p>評価方法</p> <p>終講時試験・提出物状況・授業参加状況による総合評価</p>						回数	内容	回数	内容	1	与薬の基礎知識 与薬の種類と看護	8	点滴静脈内注射 演習	2	筋肉内注射・皮下注射・皮内注射の方法	9	筋肉内注射・静脈内採血 演習	3	筋肉内注射 演習	10	技術チェック(筋肉内注射)	4	検査の意義と看護師の役割・静脈血採血の方法	11	技術チェック(静脈血採血)	5	静脈血採血 演習	12	創傷処置・創傷治癒過程・包帯法	6	診察・検査・処置の介助技術	13	放射線暴露・抗がん剤暴露・輸血の管理	7	点滴静脈内注射の方法	14	検査・与薬・MEまとめ
回数	内容	回数	内容																																		
1	与薬の基礎知識 与薬の種類と看護	8	点滴静脈内注射 演習																																		
2	筋肉内注射・皮下注射・皮内注射の方法	9	筋肉内注射・静脈内採血 演習																																		
3	筋肉内注射 演習	10	技術チェック(筋肉内注射)																																		
4	検査の意義と看護師の役割・静脈血採血の方法	11	技術チェック(静脈血採血)																																		
5	静脈血採血 演習	12	創傷処置・創傷治癒過程・包帯法																																		
6	診察・検査・処置の介助技術	13	放射線暴露・抗がん剤暴露・輸血の管理																																		
7	点滴静脈内注射の方法	14	検査・与薬・MEまとめ																																		

領 域	専門分野 I	授業科目	基礎看護学Ⅸ	単位(時間数)	1 (30)
			【看護技術の適応】	講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	阪元 利恵		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院ほかで勤務				
授業のねらい 患者の様々な健康障害、発達段階、生活の特徴を捉え、看護の目的・必要性を明らかにし、状態に応じた看護を学ぶ。実際の看護実践場面をイメージしながら事例患者を理解し、看護実践とその振り返りを行う。思考・実践・評価のプロセスを経験することで、主な健康障害の症状や病態について理解し、症状にあった看護技術を習得、流動的な看護実践場面での状況判断能力や予見・評価する能力を養う。					
授業目標 1. 発熱・疼痛・呼吸困難・浮腫の主な症状のメカニズムが理解でき、疾患・症状・治療・処置を関連づけて患者の全体像を認識できる。 2. 看護の目的・必要性と援助方法がわかり、日常生活援助が実施できる。 3. 看護実践の中に潜むリスクに気づき、安全を守るための援助が理解できる。 4. 看護実践を評価する過程で看護実践の意味づけを行い、安全・安楽・自立を考慮した最善の看護を追究する基本を学ぶことができる。					
授業概要					
講 義 展 開					方法
発熱	1~3回	内容	1. 肺炎の病態生理を理解する 2. 発熱のメカニズム等、基本的な知識を学び理解する 3. 発熱の原因誘因・程度・成り行き・治療・看護を理解する 4. 看護計画を立案する		講義 GW
疼痛	4~5回	内容	1. 胆石の病態生理を理解する 2. 疼痛のメカニズム等、基本的な知識を学び理解する 3. 疼痛の原因誘因・程度・成り行き・治療・看護を理解する 4. 看護計画を立案する		講義 GW
呼吸困難	6~7回	内容	1. 事例の病態を理解する 2. 呼吸困難のメカニズム等、基本的な知識を学び理解する 3. 呼吸困難の原因誘因・程度・成り行き・治療・看護を理解する 4. 看護計画を立案する		講義 GW
浮腫	10~11回	内容	1. 心不全の病態生理を理解する 2. 浮腫のメカニズム等、基本的な知識を学び理解する 3. 浮腫の原因誘因・程度・成り行き・治療・看護を理解する 4. 看護計画を立案する		講義 GW
試験	8~9 12~13回	内容	技術試験① 技術試験②		試験
安 医 全 療	14回	内容	1. 事例を用いて、環境の中に潜む危険について捉え、対策を考える 2. 安全対策レポートの意義について理解する 3. 実習で活用するインシデント分類と安全対策レポートの記載方法を理解する		講義 GW
試験	15回	内容	終講時試験		試験
教科書 ① 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院) ② 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学②③ 基礎看護学技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院)					
評価方法 筆記試験、実技試験、課題(レポート・検討会への参加状況)により評価。					

専門分野Ⅱ

3年課程

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅰ	単位(時間数)	1(30)
			【成人看護概論】	講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	喜志多 玲		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	熊本大学病院ほかで看護師として勤務				
授業のねらい 成人期にある人の特性、生活者としての多様性、成人期の生活行動と健康障害の関連性を理解する。また、成人期の保健動向と保健対策を概括的に理解する。更に、成人期にある人の理解と援助に必要な理論やモデルを理解することで、成人を対象とした看護の基盤となる知識や考え方について学ぶ。					
授業目標 ・成人看護学の概要が理解できる ・成人看護の対象が理解できる ・成人保健の動向が理解できる ・成人の生活と健康をまもりはぐくむシステムについて理解できる ・成人期にある人を理解するための理論が理解できる ・成人看護の基本的な考え方が理解できる ・成人への看護のアプローチの基本について理解できる					
授業概要 第1回 成人看護学の概要 ライフサイクルにおける成人の位置づけ、発達課題、成人の役割 第2回 青年期の特徴と健康問題 第3回 壮年期・中年期の特徴と健康問題 第4回 成人保健の動向 大人の生活からとらえる健康 第5回 成人保健の動向 生と死の動向 健康状況 第6回 成人期にある人を理解するための理論 第7回 健康レベルに対応した看護 健康観の多様性と看護 第8回 健康レベルに対応した看護 慢性期疾患患者の特徴と看護 第9回 生活習慣に関連する健康障害 第10回 職業やストレス等に関連する健康障害 第11回 成人教育の概念 大人の学びの特徴 第12回 ヘルスプロモーション 第13回 病みの軌跡 第14回 危機介入と自己効力理論 第15回 終講時試験					
授業の進め方 教科書の内容を中心に進める。 講義形式の授業に加え、グループワークを取り入れながら授業を展開する。					
教科書 ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版 「国民衛生の動向」厚生統計協会編					
参考図書					
評価方法 筆記試験、レポート、出席・授業への取り組み状況をふまえて総合的に評価					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅱ	単位(時間数)	1 (14/30)
			【セルフマネジメント】	講義回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	喜志多 玲		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	熊本大学病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>慢性病の場合、病気そのものが完治するという状態はほとんどの場合望めない。そのため、いかに病気とうまく付き合っていく能力を獲得するかが患者にとっての目標になる。うまく病気と付き合っていくように導くためには、セルフマネジメントモデルを用いたアプローチが有効だと言われている。そこで、今回の授業では、このセルフマネジメントを支援していくための理論、対象理解、実際の看護援助の方法を学ぶ。そして、患者が生活者として病をコントロールしながら、自分らしく生きることができるための看護の理解を目指す。</p> <p>授業目標</p> <p>慢性病を持つ人の特徴を知り、演習を通してセルフマネジメントを支援する看護の実際が理解できる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> セルフマネジメントのための対象理解 本人と病気の位置関係モデル コンプライアンスとアドヒアランス 健康信念モデル セルフマネジメントを支援する看護 成人教育学 エンパワメント 自己効力感 セルフマネジメントを支援する看護 保健指導 面接指導技法の実際 指導案 指導媒体 指導媒体作成 セルフマネジメントを支援する看護 指導案 指導媒体 指導媒体作成 セルフマネジメントを支援する看護 指導案 指導媒体 指導媒体作成 セルフマネジメントを目指す看護の実際 グループ発表・まとめ <p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、グループワークを取り入れながら授業を展開する。</p> <p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ セルフマネジメント 成人看護学③ メディカ出版 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 やさしく学ぶ看護理論 日総研出版</p> <p>参考図書</p> <p>評価方法</p> <p>終講時試験、レポート、授業参加状況にて総合的に評価する。 終講時試験は、成人看護学Ⅱ【呼吸器】【腎泌尿器】と合わせて1つの試験とする。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅱ	単位(時間数)	1 (8/30)
			【呼吸器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	柳田 和之		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患患者の特徴（経過と心理） 2. 呼吸器疾患に特徴的な症状と患者の看護 せき・たん・喀血・呼吸困難 3. 治療・処置を受ける患者の看護 呼吸理学療法・酸素療法・胸腔ドレーン・手術療法 4. 疾患別看護 結核・気胸など 					
授業の進め方					
教科書を中心に、適宜資料を用いて講義を行う。					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院					
参考図書					
評価方法					
セルフマネジメント、腎泌尿器の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅱ	単位(時間数)	1 (8/30)
			【腎泌尿器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	橋本 真理・小濱 鈴代		講師所属	福岡和白病院	
授業概要					
<p>1. 内科的治療を受ける患者の看護</p> <p>1) 疾患をもつ患者の看護</p> <p>(1) 慢性腎不全をはじめとする疾患をもつ患者の経過と看護</p> <p>(2) 透析治療を受ける患者の看護</p> <p>(3) セルフケア行動への支援</p> <p>2. 泌尿器科的治療を受ける患者の看護</p> <p>1) 膀胱の手術を受ける患者の看護 — TUR - BT、膀胱全摘、回腸導管</p> <p>2) 前立腺の手術を受ける患者の看護 — TUR - P、前立腺全摘術</p> <p>3) 腎臓の手術を受ける患者の看護 — 腎摘出術</p> <p>4) 尿路結石の手術を受ける患者の看護 — TUL、ESWL</p>					
授業の進め方					
<p>1. 教科書を中心に講義を進める。</p> <p>2. 臨床現場での患者症例や経験をあげながら進める。</p> <p>3. 国家試験の出題傾向や過去の問題を参考に進める。</p>					
教科書					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院					
参考図書					
評価方法					
セルフマネジメント、呼吸器の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅲ	単位(時間数)	1(13/30)
			【セルフケア再獲得】	講義回数	6回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	大園 久美子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	長崎大学病院、九州大学病院等で看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>成人は発達段階に沿って発達課題を遂げていく中で自立し、自らをコントロールする自律した人として存在している。成人がセルフケアの低下に陥る状況が存在する中で、障害の種類によらず、主体的にセルフケアの再獲得ができるように支援することが看護の重要な役割である。</p> <p>セルフケアが低下した中途障害者がセルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援に必要な知識を養う。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケア再獲得を支援する方法を理解できる 2. 社会復帰に向けてのリハビリテーションや保健医療福祉の連携について理解できる <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケアの低下状態にある成人の理解 2. セルフケア再獲得と自立 3. セルフケア低下状態のアセスメントと評価 4. リハビリテーション看護の概念と実際 5. セルフケア再獲得を支援する方法 6. セルフケア再獲得を目指す看護の実際 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書及び資料を配布しながら講義を進めていく。</p> <p>講義形式の授業に加え、グループワークを取り入れる。</p>					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 成人看護学② メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護 成人看護学⑤ メディカ出版</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席・授業態度を含めて総合的に評価する。</p> <p>運動器、脳神経、内分泌の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (6/30)
			【運動器】	講義回数	3回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	岩石 美姫		講師所属	福岡和白病院	
<p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患（骨折、変形性関節症、脊椎疾患など）を持つ患者の身体的・精神的・社会的問題点が理解できる。 2. 疾患の病態、治療、検査 3. 上記 1. 2. を理解した上での患者にあった看護 					
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って進める。 ・演習（各種装具着用体験、牽引療法の体験、松葉杖歩行） 					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <p>整形外科看護 メディカ出版</p>					
<p>評価方法</p> <p>セルフケア再獲得、脳神経、内分泌の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (7/30)
			【脳神経】	講義回数	3回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	日高 智恵子		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状および障害に対する看護 2. 内科的治療を受ける患者の看護 3. 外科的治療を受ける患者の看護 4. 事例による症例別看護 					
授業の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を中心に講義を進める。 2. 臨床の場での患者の症例を挙げながら進める。 					
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院					
参考図書					
評価方法 セルフケア再獲得、運動器、内分泌の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅲ 【内分泌】	単位(時間数)	1 (4/30)
				講義回数	2回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	吉丸 愛		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 〔内分泌疾患患者の看護〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 甲状腺疾患患者の看護 2. 甲状腺切除術を受ける患者の術前・術後の看護 3. 副腎疾患患者の看護 〔代謝疾患患者の看護〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病としての視点から糖尿病を中心に、生活指導・自己管理方法についての看護 2. 糖尿病の合併症についての看護 3. インスリン自己注射の指導への援助方法 					
授業の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を中心に講義を進める。 2. 臨床の場での患者の症例をあげながら進める。 3. 国家試験の出題基準・過去問題を参考にして進める。 					
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院					
参考図書					
評価方法 セルフケア再獲得、運動器、脳神経の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅳ 【健康危機状況】	単位(時間数)	1(19/30)														
				講義回数	9回+テスト														
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年														
担当講師	阪元 利恵 渡邊 岳人 谷口 誠大	講師所属	福岡看護専門学校 福岡和白病院																
<p>授業のねらい</p> <p>クリティカルな状況にある対象に対する看護は「救急医療施設で実践される看護」「救急・ICU看護師が行う看護」だけではなく、場所、疾患、対象の発達段階、診療科、重症度問わず実践される看護である。クリティカルケア看護は緊急性が高く、対象にどのような援助が必要であるか迅速かつ確実な判断、技術が求められる。加えて患者や家族を擁護し人間愛に根ざした高い倫理的感受性をもつことが非常に重要である。そこで今回この授業では、クリティカルな状況にある対象に何が必要であるかを科学的な視点でのアセスメントを学び、対象の“命を救い、生を支える看護”の理解をめざしていく。</p> <p>授業目標</p> <p>救急・クリティカルケア看護の特徴と役割を理解し、援助方法を習得する。</p> <p>授業概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>救急・クリティカルケアの特性と役割</td> </tr> <tr> <td>第2・3回</td> <td>救急・クリティカルな患者の主要病態と必要な看護技術 (救急看護・集中治療看護・アセスメント・ショックなど)</td> </tr> <tr> <td>第4・5・6回</td> <td>手術前の看護 1. 外来における手術前の患者の看護 2. 手術前の具体的援助 3. 日帰り手術を受ける患者の看護 手術中の看護 1. 手術中の看護の要点 2. 手術室における看護の展開 3. 手術室の環境管理 手術後の看護 1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の発生機序 3. おこりやすい術後合併症の予防と発生時の対応</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>救急看護における患者評価方法</td> </tr> <tr> <td>第8・9回</td> <td>BLS演習</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>終講時試験</td> </tr> </tbody> </table> <p>教科書</p> <p>① ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 ② ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 ③ 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>評価方法</p> <p>① 終講試験(筆記試験) ② 技術演習 ③ 提出物 ④ 授業態度を含む出席状況 以上を総合的に評価する。</p>						回数	内 容	第1回	救急・クリティカルケアの特性と役割	第2・3回	救急・クリティカルな患者の主要病態と必要な看護技術 (救急看護・集中治療看護・アセスメント・ショックなど)	第4・5・6回	手術前の看護 1. 外来における手術前の患者の看護 2. 手術前の具体的援助 3. 日帰り手術を受ける患者の看護 手術中の看護 1. 手術中の看護の要点 2. 手術室における看護の展開 3. 手術室の環境管理 手術後の看護 1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の発生機序 3. おこりやすい術後合併症の予防と発生時の対応	第7回	救急看護における患者評価方法	第8・9回	BLS演習	第10回	終講時試験
回数	内 容																		
第1回	救急・クリティカルケアの特性と役割																		
第2・3回	救急・クリティカルな患者の主要病態と必要な看護技術 (救急看護・集中治療看護・アセスメント・ショックなど)																		
第4・5・6回	手術前の看護 1. 外来における手術前の患者の看護 2. 手術前の具体的援助 3. 日帰り手術を受ける患者の看護 手術中の看護 1. 手術中の看護の要点 2. 手術室における看護の展開 3. 手術室の環境管理 手術後の看護 1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の発生機序 3. おこりやすい術後合併症の予防と発生時の対応																		
第7回	救急看護における患者評価方法																		
第8・9回	BLS演習																		
第10回	終講時試験																		

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (9/30)
			【循環器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	和田 文香		講師所属	香椎丘リハビリテーション病院	
<p>授業のねらい</p> <p>心疾患は死因第2位で推移しており、増加傾向にある。また、循環器疾患をもつ患者は、高齢で複合的な疾患を罹患していたり、若年期や中年期に罹患し長期的に自己管理が必要であったりと多様である。循環器疾患をもつ患者の特徴を踏まえ、直接の疾患に対するケアだけでなく、予防期から発症、急性期、増悪期、終末期など個人の健康段階に応じた看護の要点を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患をもつ患者の症状や治療・処置に対する看護について理解できる。 ・各健康段階に応じた看護が理解できる。 <p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患によって起こる問題と看護 ・心不全、虚血性疾患などの疾患をもつ患者の看護 ・検査・治療を受ける患者の看護 <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自院紹介 高度急性期病床を有する病院を目指す指針 ・教科書、国家試験の過去の問題傾向をとらえた講義 ・臨床看護（周術期看護については、画像や器材等の紹介を行う） <p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 <p>参考図書</p> <p>適宜紹介いたします。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験、グループワーク・課題提出等にて総合的に評価する。</p> <p>また、健康危機状況の筆記試験と合わせて一つの試験とし評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (2/30)
			【感染症】	講義回数	1回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	崎田 宏		講師所属	福岡和白病院	
授業のねらい 学生時より感染対策の必要性を理解し、現場ですぐに実践できるようになってもらう					
授業目標 <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策の重要性を理解することができる ・根拠に基づいた感染対策を行うことができる 					
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・各種感染症の症状や感染対策について ・膀胱留置カテーテルや中心静脈ライン等のデバイス関連について ・感染性廃棄物について 					
授業の進め方 スライド (power point) を用いて進める					
教科書 系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪ 医学書院					
参考図書 <ul style="list-style-type: none"> イラスト みんなの感染対策：照林社 2016 感染管理・感染症看護テキスト：照林社 2015 基礎から学ぶ医療関連感染対策 南江堂 2012 					
評価方法					

3年課程

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅴ	単位(時間数)	1 (14/30)
			【治癒困難】	講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	柴田 昌枝	講師所属	福岡和白病院		
<p>授業のねらい</p> <p>治癒困難な状態にある患者を援助するために、痛みに代表される苦痛をはじめとするトータルペインの理解が必須であり、その人らしく生き抜くための援助について考える姿勢が求められる。終末期にある患者の全人的な理解とその援助方法の理解を目指す。また、終末期にある患者家族の心理と逝去後の適応過程とその援助方法について理解することを目指す。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治癒困難な状態にある対象と家族について理解できる。 2. 患者と家族のQOLを実現する看護の方法が理解できる。 3. 「人が生きる意味」「その人らしい最期」について考えることができる。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期における「死」とは 2. 「時間存在」「関係存在」「自律存在」としての人の存在 3. 治癒困難な状態における患者の苦痛の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的苦痛 2) 精神的苦痛 3) 社会的苦痛 4) スピリチュアルペイン 4. 治癒困難な経過における理論の活用について <ol style="list-style-type: none"> 1) 不安・悲嘆 2) 死の受容過程 3) 村田理論 4) ケアリング 5. 患者と家族のQOLを実現する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の終末期における疼痛をはじめとする症状コントロールと看護 2) 全人的アプローチ 3) 家族のグリーフケア 6. 人生の最後のときを支える看護師の役割と機能 7. ターミナル期の身体変化 8. 逝去時のケア 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 2. 適宜、プリント資料を配布する。 					
<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 3. ナーシンググラフィカ 緩和ケア 成人看護学⑥ メディカ出版 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者のための実践スピリチュアルケア 小澤竹俊著 日本医事新報社 2. 絵で見るターミナルケア 佐藤礼子他著 学研 3. ケアの思想と対人援助 村田久行著 川島書店 					
<p>評価方法</p> <p>消化器、血液・造血器の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅴ	単位(時間数)	1 (9/30)
			【消化器】	講義回数	4回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	久保田 真帆		講師所属	福岡和白病院	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系：解剖～生理 2. 消化器疾患における症状と症状別看護 3. 手術をうける患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・ドレーン管理 4. 消化器疾患患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・食道、胃、大腸がん患者の看護 ・肝臓、胆嚢、膵臓がん患者の看護 					
授業の進め方 <p>教科書、資料を用いて講義を行う。</p> <p>国家試験の過去問題の事例からポイントのみ講義に取り入れる。</p>					
教科書 <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院</p>					
参考図書					
評価方法 <p>治癒困難、血液造血器の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅴ	単位(時間数)	1 (5/30)
			【血液・造血器疾患の看護】	講義回数	2回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	川崎 彩香		講師所属	国立病院機構九州がんセンター	
<p>授業のねらい</p> <p>血液・造血器疾患患者の特徴から患者の全体像をイメージし、その看護の実際が理解できる。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 血液・造血器疾患患者の主要症状とその看護の実際を理解する。 治療方針決定までの検査と治療のプロセスにおける検査を理解する。 白血病の看護を各期に分けて理解する。 悪性リンパ腫の看護を各期に分けて理解する。 造血器腫瘍患者に行われる化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植における看護を理解する。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 主要症状を有する患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 貧血のある患者の看護 出血傾向のある患者の看護 白血球減少のある患者の看護 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 白血病・悪性リンパ腫患者の検査 主要な検査と看護 造血器腫瘍患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 白血病患者の看護 悪性リンパ腫患者の看護 造血器腫瘍患者の意思決定支援 がん薬物療法と看護 放射線療法と看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業始めに、「血液の成分と機能」や「1回目の授業」について振り返るために、質問する。 教科書を中心に、パワーポイントを用いて説明する。 1回目の授業終了時に、質問や感想を確認し、2回目の授業に活かす。 					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みるみるナットク血液疾患 文光堂 ・血液・造血器疾患エキスパートナーシング 南江堂 ・医師と看護師のための造血幹細胞移植 医薬ジャーナル社 ・造血幹細胞移植の看護 南江堂 					
<p>評価方法</p> <p>治癒困難、消化器の筆記試験と合わせて一つの試験とし、総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅴ	単位(時間数)	1 (2/30)
			【膠原病】	講義回数	1回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	竹内 穂波		講師所属	国立病院機構九州医療センター	
<p>授業のねらい</p> <p>膠原病疾患患者の看護の特徴から患者の全体像をイメージし、その看護の実際が理解できる。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要症状とその看護の実際を理解する。 2. 薬物療法を受ける患者の看護を理解する。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 膠原病とは 2. 主要疾患患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全身性エリテマトーデス 2) 慢性関節リウマチ など 3. ステロイド療法を受ける患者の看護 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書に沿って進めるが、必要時資料等を配布する。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑩ 医学書院</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p>					

3年課程

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅵ	単位(時間数)	1 (10/30)
			【急性期】	講義回数	5回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	岩本 秀美		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	福岡大学病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>外科的治療は、外傷・炎症・腫瘍および奇形などを有する患者に対して、手術によって病巣を除去し、あるいはそこなわれた臓器を修復させることによって、その状態や機能を改善し、生命の維持と正常な日常生活への復帰をとげさせることを目指す。しかし、生体へ侵襲を加えられる手術操作を伴い、急激な病態変化をきたしやすい。そのような外科的治療を受ける患者は、原因疾患と治療に伴う身体的苦痛と同時に不安や恐怖、あるいは生命に対する不安を抱いている。授業では、急性期にある対象の特徴を理解し、効果的な回復過程を促進する看護を導くための思考を育成することをねらいとする。</p> <p>授業目標</p> <p>胃がん患者の急性期にある成人患者を事例とし、看護過程の思考を用いて看護を考えることができる。</p> <p>授業概要</p> <p>第1回 術前患者の情報収集 第2回 手術当日の看護 第3回 手術侵襲を踏まえたアセスメント 第4回 看護問題の抽出 第5回 関連図検討・看護計画</p> <p>授業の進め方</p> <p>講義形式の授業に加え、1事例を個人で展開しながら授業を展開する。</p> <p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 健康危機状況/セルフケアの再獲得 成人看護学② メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 周手術期看護 成人看護学④ メディカ出版 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院</p> <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程展開の内容による総合評価を行う。詳細は講義にて説明する。 ・課題レポート、授業への取り組み状況を加味する。 					

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅵ	単位(時間数)	1 (10/30)																		
			【慢性期】	講義回数	5回																		
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年																		
担当講師	阪元 利恵		講師所属	福岡看護専門学校																			
実務経験	独立行政法人労働者安全機構 関西労災病院ほかで勤務																						
<p>授業のねらい</p> <p>慢性期看護において課せられる今日の課題の一つは、慢性疾患を患う人々が病気と上手に付き合いQOLを向上させ、生活を充実させることが可能となるように働きかけることである。</p> <p>慢性期に生きるための援助も、一見容易なテーマのように見えるが意味は深い。慢性疾患患者の看護について理解し、患者が疾患に関わらず生活をできる限り普通に保つためにどのような生き方をするのか、看護師がいかに支えるかという視点を学び、実践に活用できる考え方や方法を見いだしていく。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ成人への健康教育・患者教育を導きだす考え方を理解できる。 脳梗塞患者のもつ生活上の問題を理解し、看護計画立案ができる。 <p>授業概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>講義オリエンテーション 事例DVD視聴 情報収集・整理 基本データシート記入</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>アセスメント検討① 看護の方向性</td> <td>GW 検討会</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>アセスメント検討② 看護の方向性</td> <td>GW 検討会</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>関連図・看護診断・優先度検討</td> <td>GW 検討会</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>看護計画検討</td> <td>GW 検討会</td> </tr> </tbody> </table>						回数	内容	方法	第1回	講義オリエンテーション 事例DVD視聴 情報収集・整理 基本データシート記入	講義	第2回	アセスメント検討① 看護の方向性	GW 検討会	第3回	アセスメント検討② 看護の方向性	GW 検討会	第4回	関連図・看護診断・優先度検討	GW 検討会	第5回	看護計画検討	GW 検討会
回数	内容	方法																					
第1回	講義オリエンテーション 事例DVD視聴 情報収集・整理 基本データシート記入	講義																					
第2回	アセスメント検討① 看護の方向性	GW 検討会																					
第3回	アセスメント検討② 看護の方向性	GW 検討会																					
第4回	関連図・看護診断・優先度検討	GW 検討会																					
第5回	看護計画検討	GW 検討会																					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 成人看護学⑥ 内分泌 (医学書院)</p> <p>新体系 看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学 メヂカルフレンド社</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版</p>																							
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人看護学Ⅵ 急性期 (40点) + 慢性期 (30点) + 終末期 (30点) の合計点で評価する。 慢性期は、講義への参加状況、看護過程のレポート (課題の提出状況、看護過程の毎回の追加状況など) をもとに評価する。 																							

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅵ	単位(時間数)	1 (10/30)
			【終末期】	講義回数	5回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	小池 久美		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>終末期にある患者の看護の目的は全人的苦痛に対するケアを中核に、家族を含めたケアの実践を行い、患者と家族のクオリティオブライフを高めることである。患者らしく生き抜き、迎える「死」の意味を考え、看護する方法を考えられることを目指す。</p> <p>授業目標</p> <p>終末期における成人期にある対象が抱えるトータルペインについて理解し、そのケアを導き出すことができる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期にある患者の看護を展開する 2) 個人演習 3) 検討会 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いて看護過程の展開を行う。 2. 毎回授業時に課題を提示、課題を提出後、授業にて検討を行う。 					
<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① メディカ出版 2. ナーシング・グラフィカ 緩和ケア 成人看護学⑥ メディカ出版 3. 看護診断ハンドブック 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者のための実践スピリチュアルケア 小澤竹俊著 : 日本医事新報社 2. 絵で見るターミナルケア 佐藤礼子他著 : 学研 					
<p>評価方法</p> <p>課題内容、授業への取り組みを含めた看護過程の総合評価とする。</p> <p>成人看護学Ⅵ 急性期 (40点) + 慢性期 (30点) + 終末期 (30点) の合計点数で評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅰ	単位(時間数)	1(30)
			【老年看護学概論】	講義回数	14回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	小池 久美	講師所属			
<p>授業のねらい</p> <p>加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の特徴や健康問題，社会の動向，高齢者を取り巻く環境を理解し老年看護の基本となる考え方を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯発達という視点で高齢者をとらえ，身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 社会の動向・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉のあり方と機能・役割を理解する。 老年看護の特徴と機能や役割を理解する。 <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ライフサイクルからみた高齢者の理解 加齢に伴う変化 <ol style="list-style-type: none"> 身体機能の生理的变化 心理・精神機能の変化 老年期の発達課題 高齢者をとりまく社会 <ol style="list-style-type: none"> 健康指標・生活視点からみた高齢者の理解 高齢者を支える制度と社会資源 長期療養施設・在宅の看護 高齢者看護における倫理 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書・資料を中心にすすめる。</p> <p>なお，“加齢に伴う変化”を理解するために，授業中に高齢者疑似体験を実施する。</p> <p>講義形式の授業に加え，グループワーク・DVD視聴などを取り入れながら授業を展開する。</p>					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版</p> <p>「国民衛生の動向」厚生統計協会編</p> <p>その他，授業中に適宜資料を配布</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験，レポート提出状況・授業への取り組み状況</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅱ	単位(時間数)	1 (30)
			【高齢者の理解・日常生活援助】	講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	角倉 博美		講師所属	香椎丘リハビリテーション病院	
授業のねらい					
<p>加齢に伴う様々な現象が生活に及ぼす影響、QOLを高める日常生活の援助技術、障害された機能を補うための器具・福祉用具の活用方法について学び、老年看護に必要な基礎的技術・加齢による変化に対する生活援助技術を身につける。</p>					
授業目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う機能の変化が生活に及ぼす影響が理解できる。 2. 老年看護に必要な基礎的技術と知識を理解する。 3. 老年看護に必要な日常生活援助技術を身につける。 					
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う機能の変化が日常生活に及ぼす影響 2. 老年看護の基礎的技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の観察 2) 高齢者とのコミュニケーション 3. 高齢者の健康を支える看護 4. 日常生活援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃用症候群のアセスメントと看護 2) 食生活と摂食障害へのアセスメントとケアの技法（経管栄養法含む） 3) 排泄障害のアセスメントとケアの技法（膀胱留置カテーテルの管理含む） 4) 清潔・入浴にみられる身体変調と援助 5. 終末期にある高齢者への関わり 					
授業の進め方					
<ol style="list-style-type: none"> ①テキスト・資料・パワーポイントを用い、講義を進める。 ②事例をもとに演習を行う。 					
教科書					
<p>ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版</p>					
参考図書					
<p>高齢者看護学 中央法規 最新老年看護学 改訂版 日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>					
評価方法					
<p>終講時試験、レポート、授業参加状況による総合評価を行う。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	秀島 康和 眞武 史成	講師所属	香椎丘リハビリテーション病院 福岡和白病院		
授業のねらい					
<p>老年看護学の方法論として高齢者によく見られる疾患、リスクマネジメントについて学ぶ必要がある。高齢者の特徴をふまえ、健康障害と看護について学び、高齢者の看護に興味をもつことができる。</p>					
授業目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢看護の特徴を理解できる。 2. 高齢者に起こりやすい疾患を理解できる。 3. 起こりうるリスクとマネジメント、基本的考え方、展開が理解できる。 4. 治療を受ける高齢者の看護援助が理解できる。 					
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症 2) うつ 3) せん妄 2. 疾患、主要症状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疼痛 2) 脱水 3) 浮腫 4) 褥瘡 5) 嚥下障害 6) 尿失禁 7) 痒み 3. リスクマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) リスクとは 2) 転倒・転落予防 4. 治療を受ける高齢者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法 2) 手術療法 3) リハビリテーション 4) 診察・検査 5) 入院 					
授業の進め方					
<p>教科書と資料、power point を用いて講義・グループワークの内容で進めていく。 基礎で学んだ主要症状について、知識・技術を確認しながら高齢者への看護を考える。</p>					
教科書					
<p>ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版</p>					
参考図書					
<p>老年看護学概論 南江堂 エビデンスに基づく高齢者の看護ケア 中央法規出版 認知症ケアガイドブック 日本看護協会 摂食・嚥下障害ガイドブック 中央法規出版</p>					
評価方法					
<p>終講時試験および、レポート、授業態度を総合的に評価する。</p>					

3年課程

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	野村 あす美		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	済生会福岡総合病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の理解を基盤に、高齢者の健康を支える看護について看護過程を通して学ぶ。また、高齢者特有の疾病の看護について学ぶ。急速な少子高齢化が進む中、加齢と共に個別化していく高齢者の看護に目を向けて、高齢者の健康の質と個々にふさわしい援助が展開できるような思考を育成することをねらいとする。</p> <p>授業目標</p> <p>1. 高齢者の特徴・健康上の問題を把握し、看護過程の展開ができる。</p> <p>授業概要</p> <p>第1回：講義オリエンテーション、 疾患・高齢者の特徴の基礎知識の確認、事例定時、看護展開（情報収集）</p> <p>第2回：看護過程展開（情報の整理～アセスメント）</p> <p>第3回：看護過程展開（アセスメント検討-健康管理～活動・運動）</p> <p>第4回：看護過程展開（アセスメント検討-睡眠・休息～価値・信念）</p> <p>第5回：看護過程展開（アセスメント検討-関連図）</p> <p>第6回：看護過程展開（看護診断・優先度）</p> <p>第7回：看護過程展開（看護計画）</p> <p>第8回：終講時試験</p> <p>授業の進め方</p> <p>①講義形式の授業に加え、看護過程は1事例を個人で展開しながら、検討会を通して内容を深める。</p> <p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版</p> <p>参考図書</p> <p>看護診断ハンドブック 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 他、随時紹介する</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験、講義への参加状況、看護過程のレポート（課題の提出状況、看護過程の毎回の追加状況など）をもとに評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅰ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤野 千加子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>子どもについての理解を深め、家族や取り巻く社会の中での小児看護の役割を学習する。</p> <p>授業目標</p> <p>健康な小児の成長・発達を軸に小児看護の基本理念や特徴を理解できる。 小児と家族、社会、環境、諸問題とその影響について理解できる。</p> <p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児看護の特徴と理念 ・ 子どもの成長・発達 ・ 子どもの栄養 ・ 小児各期の特徴と看護：新生児、乳児、幼児、学童、思春期、青年期 ・ 家族の特徴とアセスメント ・ 子どもと家族を取り巻く社会 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書と資料、およびDVDを用いての講義</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論／小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <p>新体系看護学全書 小児看護学概論、小児保健 小児看護学① メヂカルフレンド社</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況により学習者の到達度を評価</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅱ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤野 千加子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>病気・障害を持つ子どもと家族の看護について学習し、アセスメントに必要な検査や処置などの援助の方法を学習する。</p> <p>授業目標</p> <p>病気・障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と、状況に応じた看護を理解できる。 検査や処置が子どもに及ぼす影響を理解し、発達段階に応じた介助、技術を理解できる。</p> <p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 ・ 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 ・ 子どもにおける疾病の経過と看護 ・ 子どものアセスメント ・ 検査・処置を受ける子どもの看護 ・ 障害のある子どもと家族の看護 ・ 子どもの虐待と看護 <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書と資料を用いての講義 ・ バイタルサイン測定、検査処置時の固定や介助の方法など、小児に必要な看護技術の演習 <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論／小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学② メヂカルフレンド社</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況、授業への参加状況により評価</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤野 千加子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>小児特有の疾患とその症状を理解し、疾患をもった子どもと家族への看護を学習する。</p> <p>授業目標</p> <p>小児疾患と特有の症状を理解し、看護援助の方法を理解する。 健康障害の経過に応じた子どもと家族への看護を理解する。</p> <p>授業概要</p> <p>1. おもな疾患の経過と疾患をもつ子どもの看護</p> <p>1) 染色体異常・先天異常 2) 代謝性疾患 3) 内分泌疾患 4) アレルギー性疾患 5) 感染症 6) 呼吸器疾患 7) 循環器疾患 8) 消化器疾患 9) 血液・造血器疾患、悪性新生物 10) 腎・泌尿器疾患 11) 神経疾患 12) 事故・外傷</p> <p>2. 症状を示す子どもの看護</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書と資料を用いての講義</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論／小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学② メヂカルフレンド社</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、出席状況により学習者の到達度を評価</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤野 千加子		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>健康障害をもたらす小児や家族への影響を小児の発達段階をふまえてアセスメントし、問題点をとらえ解決への看護の視点を養う。</p> <p>授業目標</p> <p>紙上事例を用いて、小児や家族の看護上の問題点をとらえ、看護過程の展開ができる</p> <p>授業概要</p> <p>気管支喘息患児の事例展開</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>①小児期のアセスメントガイドに沿って看護問題を抽出し、看護計画を立案する。 ②発達段階に応じた保健指導案をグループワークにて作成する。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論／小児臨床看護総論 小児看護学① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>看護診断ハンドブック 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>看護過程レポート、保健指導案、筆記試験、出席状況により評価</p>					

3年課程

領 域	専門分野	授業科目	母性看護学 I	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	1年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田中 淳子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	独立行政法人国立病院機構九州医療センターにて助産師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>母性看護学の特性と看護の目的を理解することをねらいとして、社会情勢の多様化による現代の母性に関する話題を通して、生命および性に関わることへの興味が高まり、実践に活用できる考え方や方向性を学習する。</p> <p>授業目標</p> <p>母性の概念及び母性看護の意義を理解する。</p> <p>授業概要</p> <p>1回目 母性看護の概念 1) 母性看護の中心概念 2) 母性看護実践を支える概念</p> <p>2回目 リプロダクティブヘルスに関する概念 1) リプロダクティブヘルス/ライツ (諸外国における女性の健康含む) 2) セクシュアリティとジェンダー 3) ヒトの発生・性分化のメカニズム他 4) 性意識の発達・性同一性障害</p> <p>3回目 リプロダクティブヘルスに関する動向</p> <p>4回目 リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援 女性の自立支援</p> <p>5回目 ライフサイクルにおける女性の健康と看護 生殖に関する生理</p> <p>6回目 生殖における健康問題と看護・加齢とホルモンの変化 1) 思春期の健康と看護 2) 成熟期の健康と看護 3) 更年期の看護と健康 4) 老年期の看護と健康</p> <p>7回目 生殖における健康問題と看護・加齢とホルモンの変化 グループワーク発表</p> <p>8回目 終講時試験</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>講義 グループワーク</p>					
<p>教科書</p> <p>母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 ナーシング・グラフィカ</p> <p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会</p>					
<p>評価方法</p> <p>グループワークの参加度・授業態度・レポート等と終講時テストによる総合評価</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅱ		
			単位(時間数)	1 (30)	
			講義回数	14回+テスト	
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	三好 君江		講師所属		
<p>授業のねらい</p> <p>正常な妊娠・分娩期における母児の生理的变化を理解し、健康な児を出産するため、健康を維持するために必要な援助と、母児を支える家族の役割について学習する。</p> <p>授業目標</p> <p>正常な経過をたどる妊婦、産婦と胎児の看護について理解できる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の生理について 2) 妊婦の身体的、心理的、社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族への保健指導 2. 分娩期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩の生理について 2) 産婦の身体的、心理的、社会的変化 3) 分娩経過に応じた産婦と家族への看護 					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を中心に、適宜資料の配付、DVDを使用しながら講義を進める。 2. 妊婦、産婦に必要な援助技術の演習は、グループワークを実施する。 					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 母性看護の実践 母性看護学② メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 母性看護学③ メディカ出版</p>					
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>出席状況、グループワークの参加度、筆記試験による総合評価</p>					

3年課程

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田中 淳子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	独立行政法人国立病院機構九州医療センターにて助産師として勤務				
授業のねらい 正常な産褥期・新生児期の経過と看護について理解し、家族も含めた看護や保健指導が実施出来るように学習して欲しい。また、健康の視点で対象を捉えやすいようにウェルネス看護診断の考えを取り入れた看護過程を学んで欲しい。					
授業目標 正常な経過をたどる産褥期・新生児期の生理的变化と看護を理解することができる。					
授業の概要 1回 これから学ぶ母性看護学Ⅲとは 2回 新生児の生理・アセスメント 3回 新生児期のケア 4回 新生児の沐浴・フィジカルアセスメント (演習) 5回 褥婦の看護 6回 母乳育児と看護 7回 産褥復古を促す援助・母乳育児を促す援助 グループワーク発表会 8回 保健指導案 発表会 9回 新生児の沐浴・フィジカルアセスメントについてグループワーク発表会 10回 看護過程演習 ウェルネス型看護診断とは 事例紹介 11～14回 看護過程演習 1) ウェルネス看護診断の考えを取り入れた、産褥と新生児の看護過程を展開する。 15回 終講時試験					
授業の進め方 1. 講義 1) 教科書の内容を中心にビデオやレポートなどを取り入れながら講義を進める。 2) グループワークにより看護の必要性を見出す。 2. 看護過程の展開 1) 看護展開において必要な知識(妊娠・分娩・産褥・新生児)を振り返る 2) ウェルネス型のアセスメント・診断および看護計画(援助)について 3. 演習 1) 褥婦の看護(産褥体操・家族計画・乳房マッサージ など) 2) 新生児の看護技術(抱き方・おむつ交換・沐浴・観察・計測など)					
教科書 母性看護学② 母性看護の実践 ナーシング・グラフィカ					
参考図書 系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 母性看護学Ⅱ 周産期各論 (医歯薬出版)					
評価方法 グループワークの参加度・授業態度・レポート等と終講時テストによる総合評価 褥婦・新生児の理解 70% 看護過程 30%					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	三好 君江 西口 沙也佳*1		講師所属	新久喜総合病院*1	
<p>授業のねらい</p> <p>周産期にあるハイリスク時の看護では、ハイリスク状態と主な治療・看護について、対象者とその家族を含めた看護について学ぶ。また、女性のライフサイクルの中での健康障害として女性生殖器疾患、看護について学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>妊娠、分娩、産褥期に健康問題をもつ人の看護について理解できる。 女性生殖器の疾患、看護について理解できる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク妊婦の看護 2. 分娩期の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩経過の異常と看護 2) 異常のある産婦の看護 3. 産褥期の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産褥経過の身体的異常と精神障害 4. 新生児の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 異常のある新生児の看護 5. 女性生殖器疾患患者の看護 <p style="text-align: right;">*1 乳腺疾患看護</p> <p style="text-align: right;">子宮がん・乳がん患者の看護</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書を中心に、適宜資料を配付しながら講義を進める。</p>					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 母性看護の実践 母性看護学② メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 母性看護学③ メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学⑨ 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>授業態度・レポート等と終講時テストによる総合評価</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅰ	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	山崎 不二子		講師所属	福岡女学院看護大学	
<p>授業のねらい</p> <p>精神的健康の定義とその発達過程、さらには精神的健康に課題を持つ対象者の健康回復に向けた援助に必要な基礎的知識と技術を理解する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神的健康の定義・発達過程と精神看護の目的と対象が理解できる 2. 対人関係理論を活用し信頼関係を構築する過程と技術が理解できる 3. ストレスと危機理論について説明できる 4. 自己のストレスを認識し適切な対処行動をとることができる 6. 精神医療・看護の歴史と法制度を理解し、今後の課題を説明できる <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回：精神（自我・人格等）の発達過程・発達課題 2回：精神看護の目的と対象者、看護職の役割 3回：ストレス概念とコーピング、自己のストレスチェック 4回：危機理論と介入 5回：援助的人間関係の形成過程 6回：精神医療・看護の歴史と課題、法制度 7回：精神看護における倫理問題と人権擁護 8回：評価 					
<p>授業の進め方</p> <p>講義やグループワーク、さらには演習を通して、精神的健康についての理解を深める。また、適宜小テストを行い理解度を確認しながら進めていく。積極的な発言や参加を望む。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院</p>					
<p>参考図書</p> <p>講義の中で随時紹介していく</p>					
<p>評価方法</p> <p>課題の提出（10点）、小テスト（10点）終講時試験（80点）で総合的に評価する。</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅱ	単位(時間数)	1(30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	早 渕 雅 樹		講師所属	香椎療養所	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症 2. 躁うつ病 3. 神経症 4. 摂食障害、睡眠障害 5. 物質関連障害 6. 認知症 7. せん妄 8. 器質性精神病、精神遅滞 9. 小児期の精神疾患 10. 人格障害 11. てんかん 12. 精神保健福祉法 					
授業の進め方 <p>主に配付プリントの内容にそって、一部教科書に沿って講義を行う。</p>					
教科書 <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院</p>					
参考図書 <p>精神科治療の覚書 日本評論社 DSM-V 精神疾患の分類と診断の手引き 医学書院</p>					
評価方法 <p>試験は講義した内容に即して出題する。(筆記試験)</p>					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (15/30)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田島 知明・北原 和彦		講師所属	肥前精神医療センター	
授業のねらい 精神の主要な疾患について理解できるように授業を進めていく。					
授業目標 精神疾患患者の看護について理解できる。					
授業概要 精神障害者の看護					
田島 知明先生担当			北原 和彦先生担当		
1. 統合失調症患者の看護①			5. 症状精神病患者の看護		
2. 統合失調症患者の看護②			6. アルコール・薬物依存患者の看護		
3. 精神遅延・てんかん・自閉症患者の看護			7. 心因性精神病と神経症患者の看護		
4. 精神科における身体ケア					
授業の進め方 教科書、配布資料、パワーポイント、DVD を用いながら講義を進める					
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 新体系看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メジカルフレンド社					
参考図書 ・統合失調症の自己管理 / 丹羽 真一編 / 医薬 ジャーナル社 ・統合失調症・気分障害をもつ人の生活と看護ケア / 坂田三允著 / 中央法規 ・精神看護学ノート / 医学書院 ・精神科の身体ケア技術 / 医学書院 ・精神看護エクスペール 精神科リハビリテーション看護[第2版] / 坂田 三允					
評価方法 筆記試験による評価 三善先生の筆記試験と合計して総合的に評価する。					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅲ	単位(時間数)	1 (15/30)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	三善 千恵		講師所属	疋田病院	
授業のねらい 「患者－看護師」の人間関係の視点から対象への治療的関わりを学ぶ。					
授業目標 <ul style="list-style-type: none"> ・精神に障害のある人の看護の共通な援助方法を理解する。 ・精神に障害のある人の治療的環境を整えるための方法を理解する。 					
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・精神科看護における対象の理解 ・入院環境と治療的アプローチ ・対人関係技術（接触の技術） ・入院生活上の問題とケアの視点 ・精神看護のリスクマネジメント（緊急事態への対処） 					
授業の進め方 教科書、配布資料を用いながら講義を進める。					
教科書 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院					
参考図書 精神障害と看護の実践 精神看護学② メディカ出版					
評価方法 筆記試験による評価					

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (26/30)								
				講義回数	12回+テスト								
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年								
担当講師	松瀬 祥一		講師所属	若久病院									
<p>授業のねらい</p> <p>精神看護の歴史と現状、地域移行の制度と支援体制、ペプロウ理論とその看護の実際などを学ぶことにより、援助対象者を全人的に捉えた総合的な看護を行えることを目指す。</p> <p>授業目標</p> <p>精神看護だけに留まらず、自己理解の上に成り立つ他者理解に基づいた包括的な看護を考えることができる。</p> <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がい者を取り巻く歴史と現在の看護の実際 2. 精神科にも対応した地域包括ケアシステムと精神科リハビリテーション 3. プロセスレコードの展開による自己の振り返りと看護への活用 4. ペプロウの人間関係の看護論と看護過程の展開 5. 精神科以外の精神看護と看護師自身のメンタルヘルス 													
<p>授業の進め方</p> <p>教科書、配布資料、スライド、看護師国家試験の過去問題等を用いながら講義を進める。</p>													
<p>教科書</p> <p>系統看護講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 新体系看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社</p> <p>参考図書</p> <table border="0"> <tr> <td>症状別にみる精神科の看護ケア</td> <td>中央法規出版</td> </tr> <tr> <td>援助技法としてのプロセスレコード</td> <td>金剛出版</td> </tr> <tr> <td>ペプロウ人間関係の看護論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>コンコーダンス・患者の気持ちに寄り添うためのスキル21</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>						症状別にみる精神科の看護ケア	中央法規出版	援助技法としてのプロセスレコード	金剛出版	ペプロウ人間関係の看護論	医学書院	コンコーダンス・患者の気持ちに寄り添うためのスキル21	医学書院
症状別にみる精神科の看護ケア	中央法規出版												
援助技法としてのプロセスレコード	金剛出版												
ペプロウ人間関係の看護論	医学書院												
コンコーダンス・患者の気持ちに寄り添うためのスキル21	医学書院												
<p>評価方法</p> <p>筆記試験による評価</p>													

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅳ	単位(時間数)	1 (4/30)
				講義回数	2回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	木本 智士 ¹⁾ 平川 裕士 ²⁾	講師所属	疋田病院 ¹⁾ 雁の巣病院 ²⁾		
<p>授業のねらい</p> <p>生活技能訓練（SST）の説明・演習を通じて効果を実感してもらおう。 社会資源とその多様性を学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>生活の質の向上、ストレス軽減の為の一つの訓練である事を理解する。 社会資源活用のための、必要な知識と連携方法の習得を目指す。</p> <p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTの目的・対象・種類・訓練の流れとポイント、注意事項の説明、演習 ・社会資源（フォーマル・インフォーマル）について 					
<p>授業の進め方</p> <p>配布資料にて講義をすすめる。</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p>					

統合分野

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論 I	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	喜志多 玲		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	熊本大学病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>平均寿命やがん罹患後の生存年数の延伸など、社会情勢の変化や医療の発展に伴い、医療・介護に対する人々のニーズも変化してきた。この変化に対応するため、病気などになっても住み慣れた地域で暮らすことのできる、地域包括ケアシステムの構築が強く推進されており、看護に求められる役割も大きい。在宅看護論 I では基礎的知識を学び、在宅看護の現状を理解する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念が理解できる。 2. 在宅看護の意義と目的、役割が理解できる。 3. 在宅療養者を支えるシステムを理解できる。 4. 在宅看護の歴史的変遷と制度について理解できる。 5. 在宅看護に求められる倫理について理解できる。 <p>授業概要</p> <p>1回目 在宅看護の目的と特徴 1) 在宅看護の目的と役割</p> <p>2回目 在宅看護の目的と特徴 2) 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供</p> <p>3回目 在宅看護の目的と特徴 3) 在宅看護における看護師の役割</p> <p>4回目 在宅看護の対象者</p> <p>5回目 在宅療養者を支えるシステム</p> <p>6回目 在宅看護の歴史的変遷と制度</p> <p>7回目 対象者の権利保障 自己決定権・成年後見制度・虐待防止・個人情報の保護</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書を中心に講義する (配布資料あり)</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p> <p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>授業態度・レポート・筆記試験で評価する</p>					

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論Ⅱ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田上 純子		講師所属	古賀訪問看護ステーション	
<p>授業のねらい</p> <p>地域看護の重要性を理解し、地域で生活し療養している人々に対しての看護を学ぶことができる。</p> <p>授業目標</p> <p>在宅看護の制度や対象者が理解できる。</p> <p>授業概要</p> <p>在宅看護の展開と課題が理解できる。 在宅での感染対策について理解できる。 家族機能とライフサイクルが理解できる。 在宅看護の事例が看護職の立場でケアマネジメントできる。 在宅におけるリスクマネジメントを理解できる。 ケアマネジャーの役割が理解でき展開ができる。 在宅における連携の特徴を理解できる。 地域包括ケアシステムの取組を把握し、介護・医療の協働の必要性が理解できる。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>テキストを用いた講義（パワーポイント含む） ケアマネジャーの役割とケアプラン作成の演習 事例展開（グループ討議と発表）</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>					
<p>参考図書</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>					

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論Ⅲ	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	鶴田 ひとみ		講師所属	和白訪問看護ステーション	
<p>授業のねらい</p> <p>在宅看護とは、疾病や障害と付き合いながら在宅療養を希望する療養者及びその家族に対して、退院後の継続した看護を提供しつつ、その個人にあった看護を家族の思いと共に考えていく。その中で看護師の役割は大きく健康状態を維持すること、悪化予防、異常の早期発見を行いながら療養者及び家族の思いに寄り添いながら自宅での療養を継続できるように支援していくことが重要である。</p> <p>ここでは、そのために必要な観察・コミュニケーション・指導技術を学ぶと共に終末期看護について家族のグリーフケアも含めて学習する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅での基本的技術を理解できる。 2. 在宅での終末期看護の特徴が理解できる。 <p>授業概要</p> <p>在宅看護における基本技術</p> <p>日常生活援助技術</p> <p>食事・排泄</p> <p>清潔・衣服</p> <p>医療依存度の高い療養者の看護</p> <p>在宅人工呼吸療法・補助技術</p> <p>気管切開部の管理</p> <p>I V H</p> <p>自己注射(インシュリン)</p> <p>在宅ターミナルの看護</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>・講義と演習</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>					

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論IV	単位(時間数)	1 (15)
				講義回数	7回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	柴田 智子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	雪ノ聖母会 聖マリア病院で看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>看護過程の展開を通して在宅看護の特徴と看護師の責任の重大さ、判断力・応用力について学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>在宅で生活する療養者及びその家族の特徴を踏まえた看護過程の展開が理解できる。</p> <p>授業概要</p> <p>1回目：その人らしさとは何か</p> <p>2回目：在宅で療養されている方の看護展開の特徴を理解する</p> <p>3回目：事例療養者および家族の理解</p> <p style="padding-left: 40px;">介護者が抱えている介後負担の理解と問題の抽出</p> <p style="padding-left: 40px;">療養者が生活する中で抱えている問題の抽出と理解</p> <p>4回目：関連図検討会</p> <p>5回目：看護計画検討会</p> <p>6回目：看護実践、訪問時のマナー（在宅室にて実施）</p> <p>7回目：まとめ</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>・講義・事例展開 ・グループワーク・演習</p>					
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>看護診断ハンドブック 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディア出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディア出版</p> <p>*在宅看護論Ⅰ～Ⅲの講義で配布された資料プリント</p>					
<p>評価方法</p> <p>レポート、講義への参加状況、筆記試験による総合評価 (課題の提出状況、看護過程の追加状況、グループワーク参加状況など)</p>					

領 域	統合分野	授業科目	看護管理	単位(時間数)	1 (18/30)
				講義回数	9回
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	岩本 秀美		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	福岡大学病院ほかで看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>看護実践者として自分の看護実践を論理的にケーススタディとしてまとめることで、論理的思考や科学的問題解決能力を養う。自らの看護実践の意味を考えることが、自身や職場の看護実践の質の向上につながることを学ぶ。</p> <p>授業目標</p> <p>実習の中で実践した看護の効果を検証し、論理的にケーススタディとして文章構成できる。</p> <p>授業概要</p> <p>第1回 ケーススタディとは 第2回 ケーススタディの構成要素、文献検討 第3回 研究テーマ絞り込み 第4回 研究テーマ絞り込み再検討 第5回 研究計画書の作成 第6回 研究計画書の作成、文献検索 第7回 ケーススタディのまとめ方 第8・9回 ケーススタディ作成</p> <p>授業の進め方</p> <p>臨地実習の看護実践を振り返り、論理的思考に基づいたケーススタディを作成する。</p> <p>教科書</p> <p>1) 高橋百合子：看護学生のためのケース・スタディ 第4版 マガカフランド社 2) 黒田裕子：やさしく学ぶ看護理論 第4版 日総研出版</p> <p>参考図書</p> <p>1) 黒田 裕子：看護研究 step by step 第4版 学研</p> <p>評価方法</p> <p>看護管理に関する筆記試験とケーススタディの提出をもって評価する。</p>					

3年課程

領 域	統合分野	授業科目	看護管理	単位(時間数)	1 (7/30)
				講義回数	3回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	久保石 佳子		講師所属	香椎丘リハビリテーション病院	
<p>授業のねらい</p> <p>組織に属しチームで働く看護師として、また地域包括ケアシステムにおける多職種との連携の中で必要となるマネジメントについての基礎知識を獲得する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の目的を理解し、看護におけるマネジメントに必要な知識を学ぶ 2. 看護師として求められる専門職としてのキャリアマネジメントに必要な知識を学ぶ <p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 看護ケアのマネジメント・サービスのマネジメント ・キャリアマネジメント 					
<p>授業の進め方</p> <p>教科書を中心に講義形式</p>					
<p>教科書</p> <p>上泉 和子：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>日本看護協会看護業務基準 看護管理テキスト 看護白書</p>					
<p>評価方法</p> <p>看護管理に関する筆記試験とケーススタディの提出をもって評価する</p>					

3年課程

領 域	統合分野	授業科目	看護管理	単位(時間数)	1 (5/30)
				講義回数	2回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	廣田 和人		講師所属	東京品川病院	
<p>授業のねらい</p> <p>看護管理の学習を通して看護を仕組みとして捉え、現状把握をして看護管理上の課題を特定し、組織としてどのように取り組めばより質の高い看護を提供できるか追究・評価するための基盤となる知識・技術を理解する。</p> <p>授業目標</p> <p>1) マネジメントに必要な知識・技術」の学習を通して、看護管理の基盤となる理論とその変遷、看護マネジメントの展開に必要な知識を理解する。</p> <p>2) 「看護を取り巻く諸制度」の学習を通して、看護の定義を確認、看護職に関連する制度を理解する。</p> <p>3) 1) 2) を通して、質の高い看護・医療の提供に向けた看護管理の意義と重要性、今日的課題について考察する。</p> <p>授業概要</p> <p>1. マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>1) マネジメント 2) 組織 3) リーダーシップ 4) 組織の調整</p> <p>2. 看護を取り巻く諸制度</p> <p>1) 看護の定義 2) 看護職と諸制度 3) 医療制度 4) 看護政策と制度</p> <p>授業の進め方</p> <p>講義形式 教科書・配布資料に基づいて進めます。</p> <p>教科書</p> <p>上泉 和子：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>なし</p> <p>評価方法</p> <p>出席率(受講態度含む)、筆記試験</p> <p>看護管理に関する筆記試験とケーススタディの提出をもって評価する</p>					

領 域	統合分野	授業科目	災害看護・国際看護	単位(時間数)	1 (18/30)
			【災害看護】	講義回数	8回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	藤原 孝成		講師所属	福岡和白病院	
<p>授業のねらい</p> <p>災害における看護師の役割について学び、看護実践のための基本的な知識を身につける。 また、被災者を個別的にアセスメントし、身体的だけではなく、精神的な援助も提供できるように、救護技術、心構えと態度、行動力を習得する。</p> <p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における医療の役割を知り、災害サイクルに応じた看護を行う必要性が理解できる 2. 災害時の応急処置の方法を理解する 3. 被災者の心理的ケアの必要性を理解する <p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義・概論 2. DMAT・CSCATTT 3. トリアージについて 4. トリアージの演習 5. 災害サイクル災害看護 6. 災害と情報管理 7. 災害とこころのケア 8. 災害看護の実際 					
<p>授業の進め方</p> <p>講義（講師作成のスライド使用） 演習（グループワーク）</p>					
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 災害看護 看護の統合と実践③ メディカ出版</p> <p>参考図書</p> <p>災害看護 人間の生命と生活を守る 監修 黒田裕子 メディカ出版</p>					
<p>評価方法</p> <p>筆記テスト 国際看護のテストと合計して総合的に評価する。</p>					

3年課程

領 域	統合分野	授業科目	災害看護・国際看護	単位(時間数)	1 (12/30)
			【国際看護】	講義回数	6回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	糀広大 (こうじこうだい)	講師所属	株)シンカクシヨソリサーチ		
授業のねらい グローバルイシューへの理解を深め看護師としての素養を高める。 看護職が世界を舞台に活躍できる職種であるという自覚を促す。					
授業目標 1. 国際社会の現状を理解する 2. 特に保健医療分野におけるグローバルイシューについて理解する 3. 看護職として、どのように国際協力に関わることができるかを知る。 4. 医療従事者としての資質の向上を目指す					
授業概要 ワークショップを通じて、世界の大きな現状を知り、実際に国際協力活動をしてきた講師の現地でのエピソードから、世界の保健医療分野はもちろんのこと、教育や環境問題などといった幅広い課題について考えるきっかけを作る。異文化理解などといった国と国との間でよく使われる言葉が、国家間だけに起こる話ではなく、例えば日常的なコミュニケーションや、将来的には患者との関係でも考える必要がある身近な問題であることに気づくきっかけとしたい。					
授業の進め方 1 ワークショップ：世界が100人の村だったら 2 保健医療分野における国際協力の現場について、体験者による発表 3 ワークショップ：水から広がる学び 4 保健医療分野以外の国際協力の現場について、体験者による発表 5 ワークショップ：医療と人権 6 まとめ (MDGs やSDGs について) 教科書・参考書は補助資料としてのみ用いる。具体的な体験談から受講者が自ら考えることを重視した授業展開をする。そのため、実際に講師が現地の活動で直面した葛藤などについては、受講者全員で自分ならどうするだろうかという解決策を考えるようなワークショップ形式で学びを深める機会を多くとりたい。					
教科書 ナーシング・グラフィカ 災害看護 看護の統合と実践③ メディカ出版					
評価方法 災害看護のテスト (50点) と合計して総合的に評価する。					

領 域	統合分野	授業科目	医療安全	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	田中 智恵子		講師所属	福岡和白病院	
授業のねらい リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養うとともに、卒業時に求められる知識・技術を習得し、対象の状態に応じた看護を実践する力を養う。					
授業目標 1. ヒューマンエラーを起こす存在として自己を認識し、自己の行動を客観的に振り替えることができる。 2. 対象の日常生活の行動・生活環境・看護行為の中の危険因子を見出すことができる。 3. 見出した危険因子が引き起こす事故を予測できる。 4. 既習の学習をもとに状況に応じた実践ができる。					
授業概要 1. 医療安全と看護の責務 2. 医療事故発生の仕組み 看護事故の構造 3. 看護事故防止の考え方 1) 療養上の世話における事故防止 ①転倒・転落 2) 診療の補助業務に伴う事故防止 ①注射 ②内服 ③チューブ管理					
授業の進め方 教科書や参考書だけでなく学生の起こしやすいヒヤリハット事例等を活用して進めていく。 演習を多く取り入れその中からリスク回避策を学ばせていく。					
教科書 ナーシング・グラフィカ 医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版					
参考図書 医学書院:系統別看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践					
評価方法 筆記試験 出席状況 演習の参加度 提出物により総合的に評価する。					

領 域	統合分野	授業科目	臨床看護の実践	単位(時間数)	1 (30)
				講義回数	14回+テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師	濱野 敦子		講師所属	福岡看護専門学校	
実務経験	社会医療法人 池友会 新行橋病院で看護師として勤務				
<p>授業のねらい</p> <p>この「臨床看護の実践」では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習していく。つまり専門分野だけの統合ではなく、基礎、専門基礎分野も統合する位置づけである。そこで今回この授業では臨床の「場」を設定し、対象の状況に応じて、既習の知識・技術を引き出し統合し、実践できる力をつけていく。</p> <p>授業目標</p> <p>既習の知識・技術を統合し、適切な看護実践ができる。</p> <p>授業概要</p> <p>第1回 看護実践能力向上の必要性 第2回 多重課題のシュミレーションから看護師に求められる能力 第3回 事例を基に問題解決思考を考える 第4.5回 パフォーマンス課題への実践・評価 第6回 日常業務へのマネジメント 第7.8.9.10回 多重課題への対応、看護実践 第11回 手術当日の臨床看護実践 第12回 手術後1日目の臨床看護実践 第13回 14回 OSCE</p> <p>授業の進め方</p> <p>この科目こそ臨床への橋渡しの意味をもつ。授業スタイルは一斉講義、演習、グループワークとする。</p> <p>教科書</p> <p>現在まで用いたテキスト全部が対象（開講してから説明する）</p> <p>参考図書</p> <p>適宜紹介する。</p> <p>評価方法</p> <p>OSCE、終講時試験および出席、授業中の質疑応答、成果物などで総合的に評価する。</p>					

